

42815

教科書文庫

4
290
41-1922
20000 18391

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

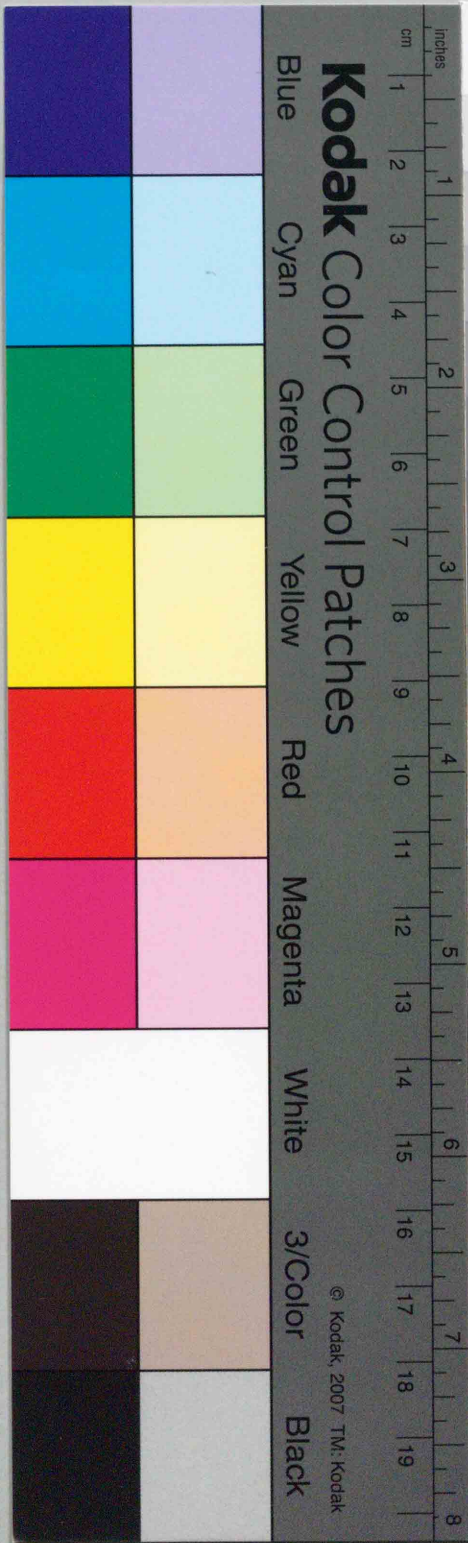


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



教科書文庫

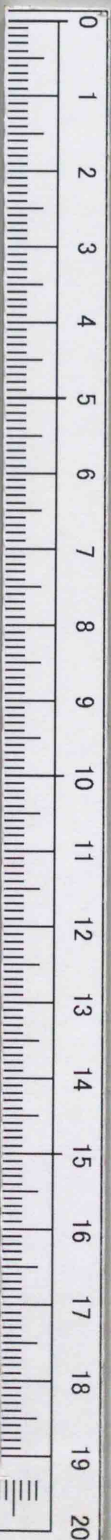
4
290
41-1922
2000018391

地理教授同志會編纂

綱要 帝國地理

東京

帝國書院藏版



文部省檢定
大正十一年三月三日

教科書文庫
4
290
41-1922
2000018391

資料室

375.9
M018

守屋荒美雄著

網要
帝國地理

東京
帝國書院藏版

広島大学図書
2000018391



廣島大學圖書印



欣快の例言

淺學非才なる著誤って地理教科書の編纂に従事すること爰に二十年、年々其の著の成る毎に、呱呱の聲を上げたる愛兒に接するが如く、欣快措くこと能はざるものあり。本書の成りしに就ても亦然り。今や世界の大勢は、我が國民の地理思想涵養の必要なるを促すこと切なるの時に際し、簡明にして要を得たる本著を爲す、これ著者の欣快とする所の一なりとす。

健筆奔馬の如き文體を喜ぶ著者が、爰に世の風潮に驅られて、言文一致體にて本書を爲せり。江湖の識者が、如何に之を批判せらるべきか、これ著者が、恐悚措くこと能はざると同時に、又欣快とする所の二なりとす。

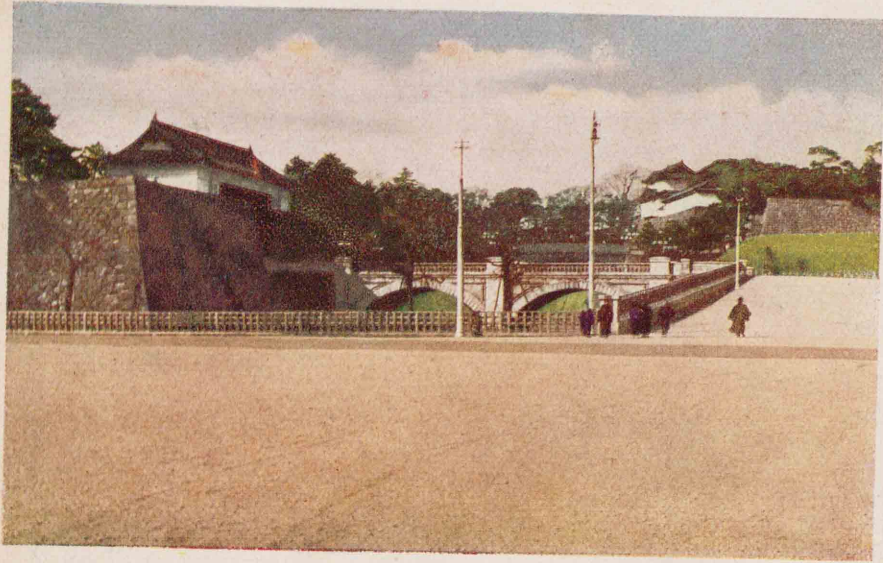
本書は、寔に簡單なれども、挿繪に向つて多大なる注意を拂ひたり。これ著者の欣快とする所の三なりとす。

守屋荒美雄謹言

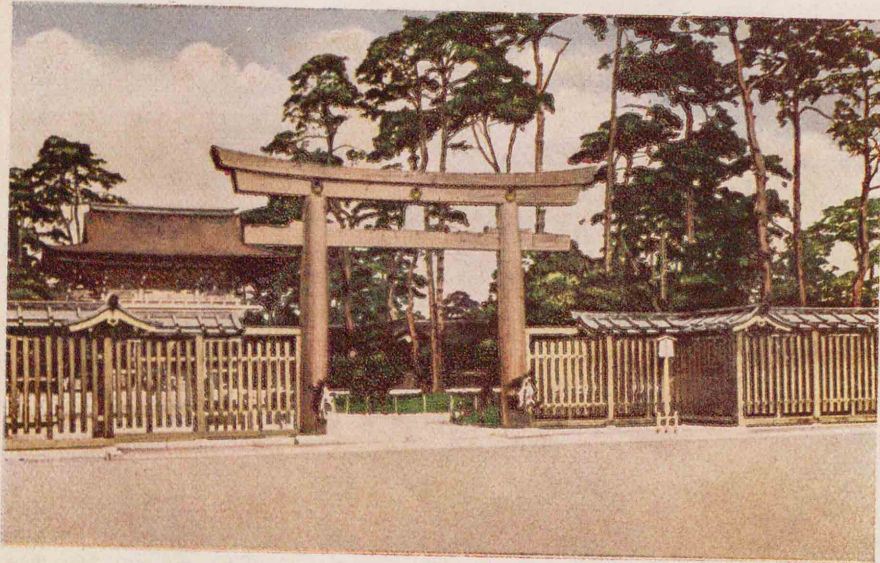
要綱 帝國地理 目次

緒論	一
第一編 地方誌	一
第一章 關東地方	一
第一節 處誌	一
第二節 概說	二
第二章 奧羽地方	二
第一節 處誌	二
第二節 概說	三
第三章 本州中部地方	三
第一節 處誌	三
第二節 概說	四
第四章 近畿地方	四
第一節 處誌	四
第二節 概說	五

目次



橋 重 二



宮 神 治 明

第五章	中國地方 四國地方	四九
第一節	處 誌	四九
第二節	概 說	五〇
第六章	九州地方	六〇
第一節	處 誌	六〇
第二節	概 括	六六
第七章	臺灣地方	七二
第八章	北海道地方	七五
第九章	樺太地方	七九
第十章	朝鮮地方	八二
附 錄		八六
第一章	地文地理	八六
第二章	人文地理	九四

青島大學
圖書印

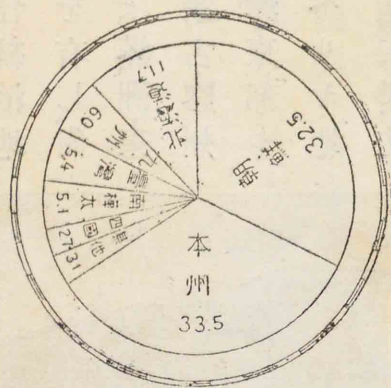
綱要 帝國地理

緒論

日本地理學習の趣味 我が大日本帝國が、日に月に發達して、世界五大國の一となつたのは、主に地理の事情のよい爲であるから、日本地理を學ぶは、趣味多きことである。

地境 我が國は、亞細亞洲の東部に位し、東北より西南に向へる長き(千餘里)列島と、南樺太・朝鮮半島とより成つて、其の面積は、四萬三千方里を越え、且つ關東州を租借し、南洋に委

本州	一、四七二
朝鮮	一、四七二
帝國各部の面積	一、四七二
割合	
北海道本島	五、六四
九州	三、二八
樺太	三、四〇
臺灣	三、三〇
四國	二、八一
諸島嶼	三、四八
合計	四、七七八

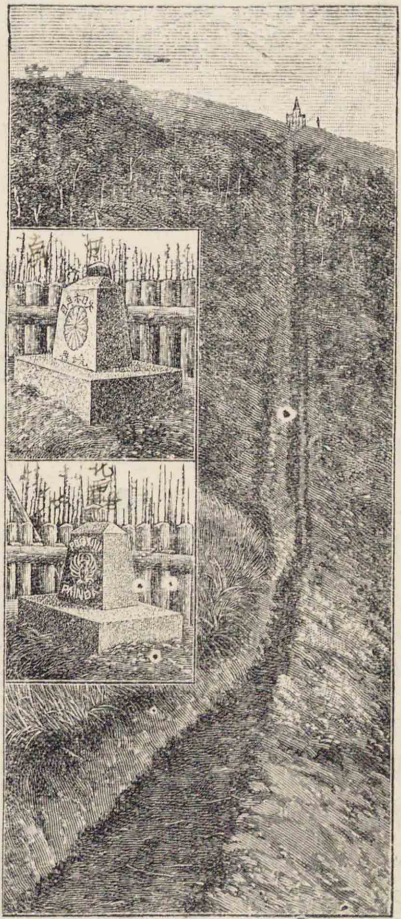


緒論

圖解 樺太の日露境界(林空作業と境界標石とを注意せよ)

帝國の四極
極東 東經一六五度
三分(占守島東端)
極西 東經二九度
八分(花嶼西端)
極南 北緯三一度五
分(七星岩南端)
極北 北緯五十二度
分(阿賴度島北端)

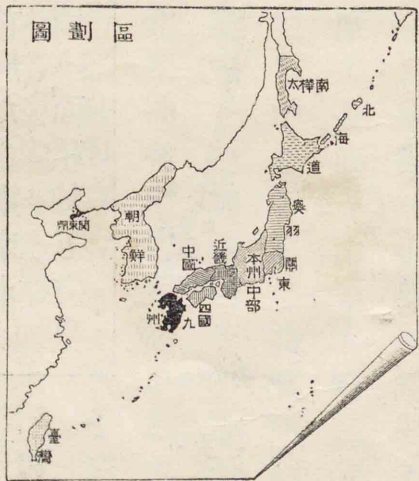
任統治地
を有し、尙
ほ滿洲東
蒙古膠州
灣東部シ
ベリヤ地
方に勢力



がある。東方は太平洋の彼方に米國を控へ、北より西にか
けては、オホーツク海・日本海・黄海・東支那海などがあつて、亞
細亞露西亞(シベリヤ)支那と境し、千島は東察加半島(カムチャツカ)領、臺灣は比律
賓群島(米領)と相對してゐる。而して樺太と朝鮮とでは、他國と
陸つゞきをして居る。

區劃 内地(臺灣南樺太、朝鮮以外)は、畿内・八道(東海・東山・北陸・山陰)又は八十五ヶ

國より成り、更に行政上、北海
道廳三府四十三縣に分れて
ゐる。其の他、南樺太は樺太廳、
朝鮮・臺灣は各總督府に依つ
て治められてゐる。本書は、
本州を關東・奥羽・本州中部・近
畿・中國の五地方に、其の他を
四國・九州・臺灣・北海道・樺太・朝
鮮の六地方に分ち、即ち全國を十一地方に分ちて記述する。

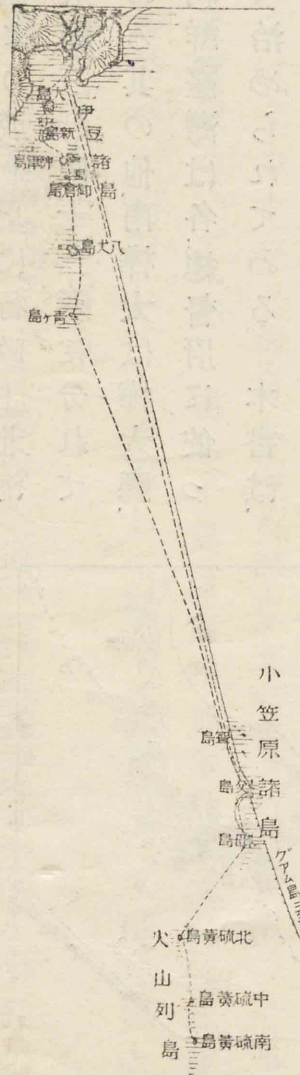


第一編 地方誌

第一章 關東地方 面積三六方里 人口二三萬人 隣境太平洋 奥羽地方 本州中部地方

第一節 處誌

東京府 西部の山地以外は平野が開けて、荒川・多摩川(東京市の源)が流れる。帝國の首府たる東京市は、隅田川(荒川下流)に跨りて東京灣に臨み、面積約五方里



管轄 武蔵中部 伊豆七島 小笠原島

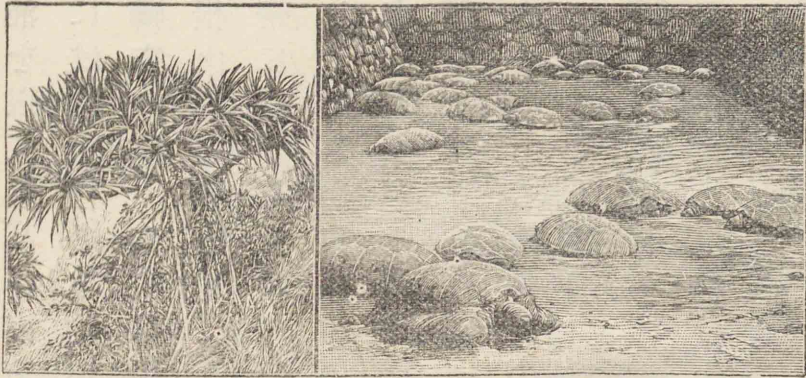
圖解 東京府の南部領屬

※内閣各省大審院等

*一高師工士大・商大陸大陸土海大を始め私立諸大學等

圖解 小笠原の熱帯性生物(海龜と林投樹)

△汽車發着點は東京・上野・飯田町・兩國橋等



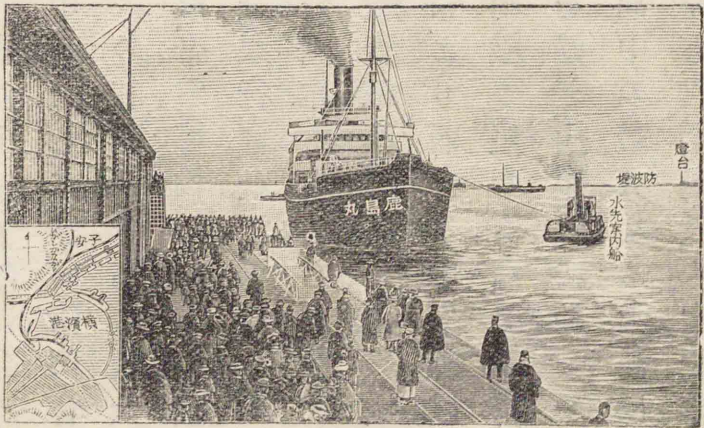
を占め、實に日本第一、世界屈指の大都市で、十五區より成り、山手・下町に分れる。略宮城を中心として、諸官衙國會議事堂、近衛第一の師團司令部、帝國大學を始め諸學校、帝室博物館がある。圖書館、書林、新聞社、銀行、會社、工場などの數が多く、社寺、公園亦あちこちに散在して、實に政治、教育、軍事、經濟、交通の中心である。市より西する中央線は、多摩川を渡り、絹織の盛なる八王子市、神奈川縣北部を過ぎ、山梨縣に赴いて居る。伊豆七島中の最大なる大島には、三原火山が峙ち、八丈島は、八丈絹椿

▲甘藷風、梨、甘蔗、海龜、林投樹
*南麓の秦野は葉煙草の名産地
*観音岬と對岸の富津洲とは堅固なる要塞がある

横濱の棧橋

*東京、大阪、神戸、京都、名古屋、横濱

油を以て名高い。南方の小笠原諸島には、熱帯性の生物が多い。
神奈川縣 馬入(相模)川以西は、大山箱根山などの山地で、東南には、要塞地帯に屬する丘陵の三浦半島が突出してゐる。東京市の門戸なる横濱市は、東京灣の西岸に臨み、神戸と並稱せられる最盛港で、帝國六大都市の一である。内外船の出入、居住外人が多くて、生絲、羽二重を輸出し、鐵材、鐵器、綿、砂糖等を輸入する。市を通過する東海道線は、大船で横須賀線に分ち、茅崎、大磯、國府津などを分ち、茅崎、大磯、國府津などの保養地を経て、静岡縣に入る。

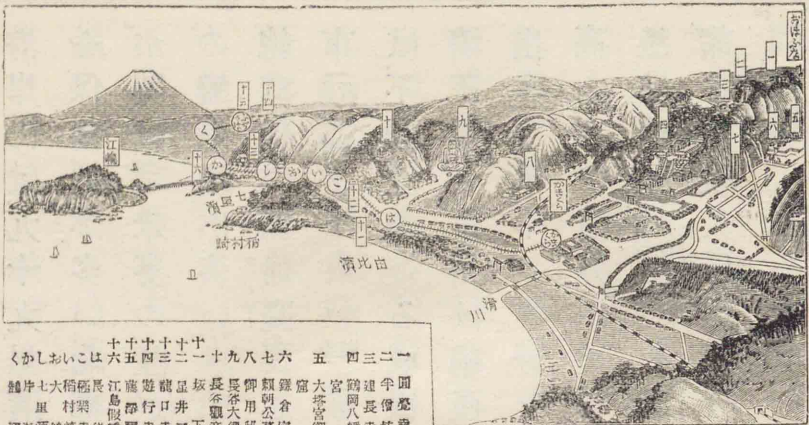


△鶴岡八幡宮、鎌倉宮、建長寺、圓覺寺等の諸寺、長谷大佛等

▲南方の久里濱にペリー上陸記念碑がある

*南方に頼朝擧兵の地石橋山がある

管轄 安房上總、下總大部



一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

鎌倉は、源頼朝開府の地で、史蹟名刹に富み、江島、逗子、葉山の勝地を控へて遊覽客が多い。軍港横須賀市は、第一海軍鎮守府海軍機關學校のある處で、開港史に名高い浦賀と共に、造船が盛で、近くに追濱飛行場がある。小田原は、後北條氏の據りし處で、熱海(豆)に汽車箱根に電車の便がある。箱根は、温泉が多く、蘆湖が湛へて、其の畔に、離宮と關址とがある。近時、ケール、カーも出來て、清遊によい。
千葉縣 南部の丘陵性の房總半島には、石材を出す鋸山、鹿野山がある。

* 模範林の清澄山を貫ひ信日蓮の誕生地

* 利根河口にある漁港で犬吠岬は船橋と共に無線電信局の所在地である
△地學者伊能忠敬の出身地附近の香取神宮と茨城縣の鹿島神宮とは名高い古社で共に官幣大社

管轄 武藏北半
* 上流に長瀬の奇景がある

▲ 鐵道省工場・氷川神社所在地
△ 西南の吉見に太古の遺跡たる百穴あり

海岸には、九十九里濱・勝浦・小湊・北條・館山・木更津などの漁場や保養地が多い。北部には、利根・江戸二川が縣境を流れ、平野が開けて、米・麥の産が多く、流山・野田・銚子(以上)・佐原(清)などの醸造地が多い。
總武線は、國府臺・習志野(兵營)を北にし、行徳を右にして、千葉市(縣廳)・大・佐倉(兵營)を経て銚子に至る。佐倉より起る成田線は、不動堂のある成田を過ぎて佐原に終る。

埼玉縣 荒川は、絹産多き秩父盆地を出て、米・麥(産額全)・繭の産出多き東半の平野を流れる。川越は、絹織物と甘藷とで名高い。この南方に陸軍飛行學校所在の所澤がある。東北本線は、浦和(高等學校)を過ぎ、大宮で高崎線を分つ。高崎線上の熊谷は、秩父鐵道の分岐點で、繭生絲の取引が盛な處である。

管轄 上野

▲ 渡良瀬川・利根川・吉妻川等

* 四萬温泉・磯部温泉

太田は、新田氏の出身地で、義貞を祀れる新田神社がある

管轄 下野

* 那須・鹽原等
* 那珂流域の烏山・茂木は、其の中心地
△ 鹿沼は、大麻産地の中心市場

群馬縣

東南隅の館林は、製粉モスリン工場の所在地である。此の地方以外は、利根の本支流の流れ出づる山地で、風光に富める赤城・榛名・妙義の諸山が峙つて、伊香保(榛名山麓)・草津(白龍山)などの温泉多く、縣内は、一般に養蠶機業が盛である。

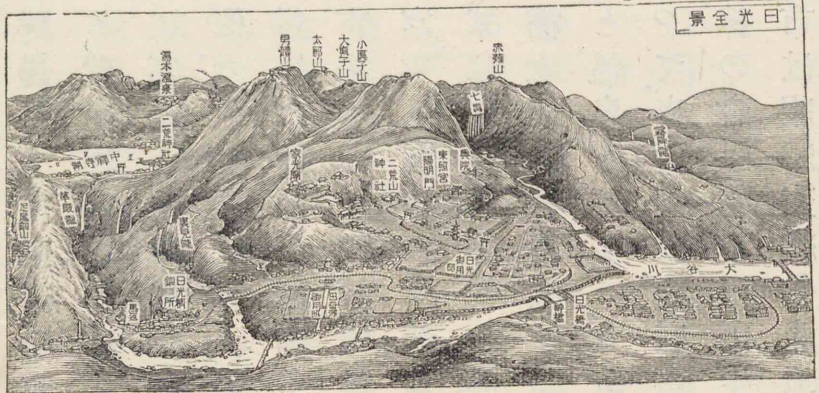
鐵道の會點に、高崎市がある。縣廳のある前橋市は、繭生絲の市場である。伊勢崎・桐生市(高)は、絹織地、上野鐵道に沿へる富岡は、屈指の製絲地である。高崎に起る信越線は、アプト式による碓氷峠の隧道を経て、長野縣に入る。

栃木縣 群馬縣と共に、兩毛と呼ばれ、那須・男體などの山嶽と温泉とが多い。東南部の那珂・鬼怒の流域のみに平野があつて、麥・葉煙草・大麻(全)を産する。小山は、水戸・兩毛・東北三線の會點、栃木は、繭生絲の取引地、佐野・真岡は、綿織産地、足利市は、絹綿交織物産地として名高い。

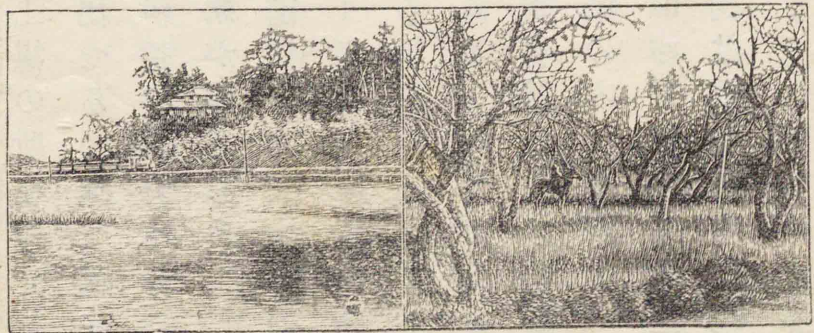
▲附近は千瓢の産地
鬼怒川上流の發電所の電力は東京に供給せらる

圖解下 常磐公園

管轄 下總北部 常陸



▲宇都宮市(縣廳、第十四師團司令部)は、東北・日光二線の分岐點である。日光は、華嚴瀧・中禪寺湖などの自然美と、東照宮などの人工美と相俟つて、内外人の歎賞する所である。其の西南の足尾は、本邦屈指の銅産地である。茨城縣 鰯・鯉の多き鹿島灘の沿岸に



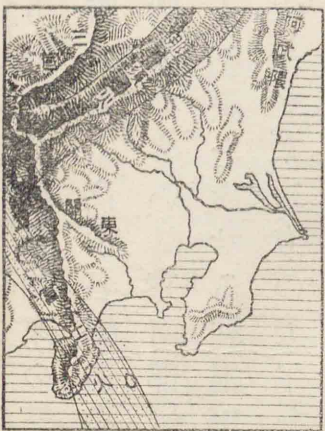
*男體・女體の双峯に分れて男體山上に故山階宮殿下創設の高空測候所がある

*吹く風をなごその關と思へども道もせに散る山櫻かな(源義家)

一府六縣?

圖解 關東地方地勢

山脈?火山脈?



第二節 概説

は、湊・大洗・助川などの漁港や、保養地が多い。北部の山地には、金銀(田立)・石炭・葉煙草・寒水石(田地上大)を出し、霞浦・北浦と、筑波の名峰を控ふる南部平野は、麥・豆類を多く産する。

那珂川下流の水戸市(縣廳、常磐公園、高等學校所在)は、徳川親藩の舊城地、水戸線上の結域地方は、紬・木綿の名産地である。常磐線は、土浦(油)・石岡(酒)・水戸・勿來(關址)を経て福島縣に入る。

地域 關東地方は、本州島の東南部を占め、一府六縣を含める關八州の地で、各府縣とも面積狭小、人口稠密である。

地勢 山地は、北より西にかけて連

川嶽? 河川?

湖沼?

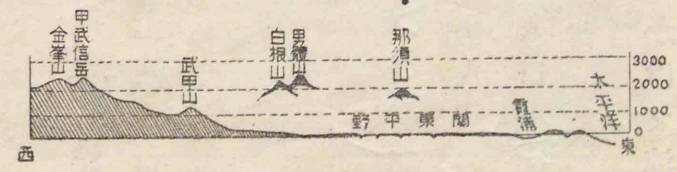
*鬼怒川・波良瀬川・吾妻川等

*手賀沼・印旛沼・霞浦・北浦等

圖解 關東地方東西断面

湖沼の有名なものは前記以外蘆湖・中禪寺湖等
△水力電氣・飲料水を供給するものがある

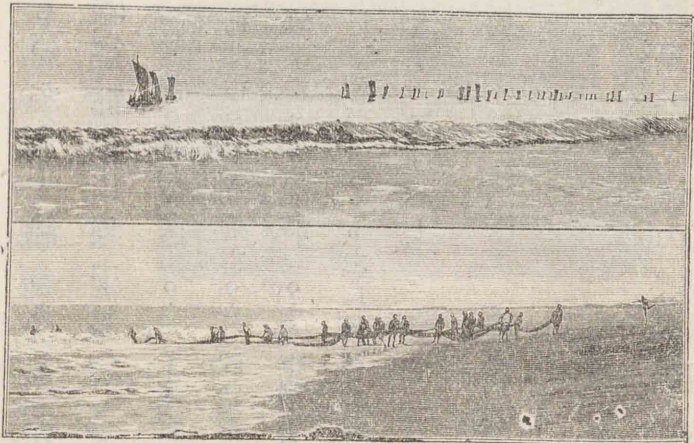
り、阿武隈・越後關東の三山脈と、那須・富士の二火山脈とあり。高山・名嶽・温泉が多く、湖沼・瀑布・溪流の奇勝も亦多い。東南部は、日本一の關東平野で、其の大動脈をなせる利根川は、數多の支流と湖水とを容れて、本地方の大半を潤しつゝ、久慈・那珂荒・多摩・馬入の諸川と共に、太平洋に注ぐ。海岸は、房總三浦兩半島間に、東京灣があり、灣口に、浦賀水道がある。三浦半島以外は、屈曲が少ない。鹿島灘、九十九里濱、相模灣は、何れも弧狀の砂濱で、漁場や保養地が多い。



氣候 山地は、北西の寒風を防ぎ、近海には、黒潮の暖流があるので、氣候・雨量が共に適順で、農耕に良く、海岸には、避暑地・避寒地が多い。

圖解 相模灘の漁船と地曳網

×街道と其の關門
東海道—箱根峠
甲州街道—小佛峠
中山道—碓氷峠
越後街道—清水越
奥羽街道—白川關
濱街道—勿來關



じ、横濱は、内外航路の中心である。銚子・船橋に、無線電信局がある。

産業 關東平野は、米・麥・豆類・甘藷・大麻・葉煙草を産し、北より西にかけては、繭・生絲・絹織物、海岸一體は、鰹・鰯の産が多い、常磐炭田・日立足尾は、鑛産地として名高く、特に京濱地方の商工と、北西部の機業とは、頗る盛である。

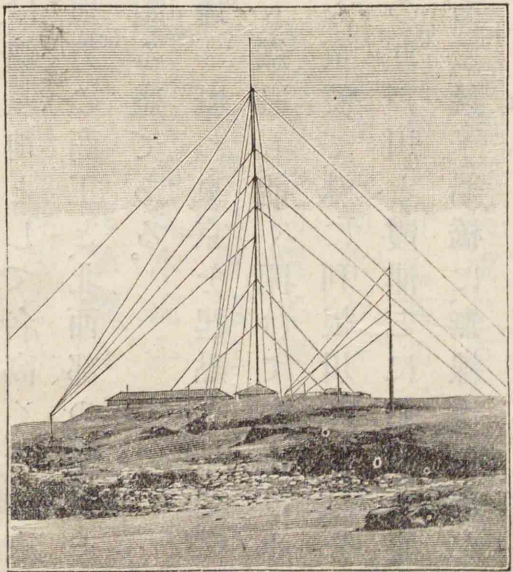
交通 概ね東京を起點として、街道も、鐵道も能く開けてゐる。水運も至便で、殊に利根川(坂東)は、分流の江戸川と霞浦とに船舶を通

圖解 銚子の無線電信局

都邑 文化が能く開けて、人口が稠密で、人口一萬以上のものが九十餘もある。住民は、益都市に集中しつゝある。

農業市？ 鑛業市？ 工業市？
 商業市？ 交通市？ 政治市？
 軍事市？ 名勝地？ 市制施行地？

以下各地方とも、之に倣ひて都會を分類列擧すべし。



管轄 磐城大部、岩代

福島縣

域内は、東部・中央の二山地によつて、東・中・西の三部

第二章 奥羽地方 第一節 處誌

第二章

奥羽地方

面積 陸心方里 隣境 太平洋 津輕海峽 日本海 本州中部地方 關東地方 人口 五五萬

圖解上 福島の生絲検査所

圖解下 猪苗代湖の水電工事之風光と磐梯山

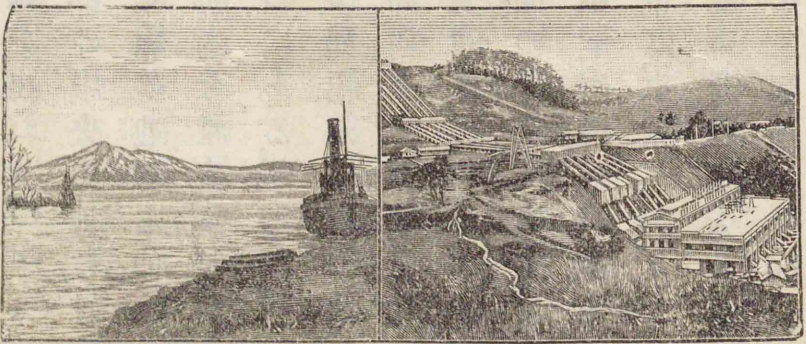
* 平・新津間
 △ 近くに川俣の羽二重産地 飯坂温泉とがある

* 湖水は灌漑用の疏水の起電とに利用せられる



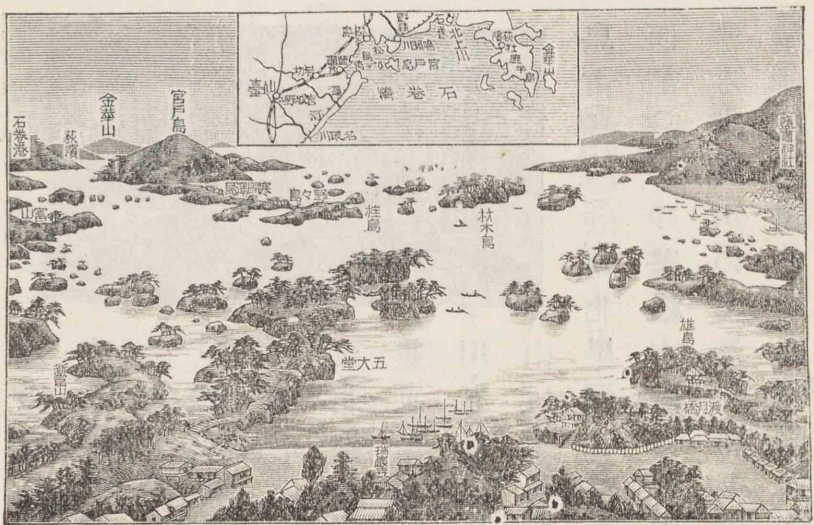
島市 (縣廳、高商所在) は、東北・奥羽二線の會點である。西部 (盆地) の若松市は猪苗代湖を水源とする阿賀川の支流に跨り、近く磐梯山を望み、白虎隊で名高い、附近より會津塗會

に分たれる。東部には、常磐線が通じて、平附近に石炭・中村に相馬焼を出し、富岡・原町に無線電信局がある。中部には、東北線と阿武隈川とが並走して居る。白河・須賀川・三春は馬の市場で、郡山は東北磐越の二線福



管轄 磐城小部、陸前大部、
△主に鍛冶屋澤附近に行はる鬼首間歇温泉がある

圖解 松島灣の鳥瞰圖と平面圖



津焼・會津蠟燭を出だす。
宮城縣 西部の中央山地には
△牧馬榮え、東北線の辿れる仙臺
平野には、陸前米を産する。石
巻は、北上川口にある。鐵道の開
通以來は、米の積出が少なくな
った。牡鹿半島西岸の萩濱は、横
濱・函館間の要津で、金華山の沖
合は、鯨・仙臺鮪の漁場である。
伊達侯の舊城下で、奥羽の最大
都たる**仙臺市**は、東京を距ること
九十里、縣廳、東北帝國大學第
二高等學校、第二師團司令部控

訴院の所在地で、仙臺平埋木細工を名産とする。其の外港の
鹽釜の前面には、日本三景の一たる松島灣の絶景が展開し
てゐる。

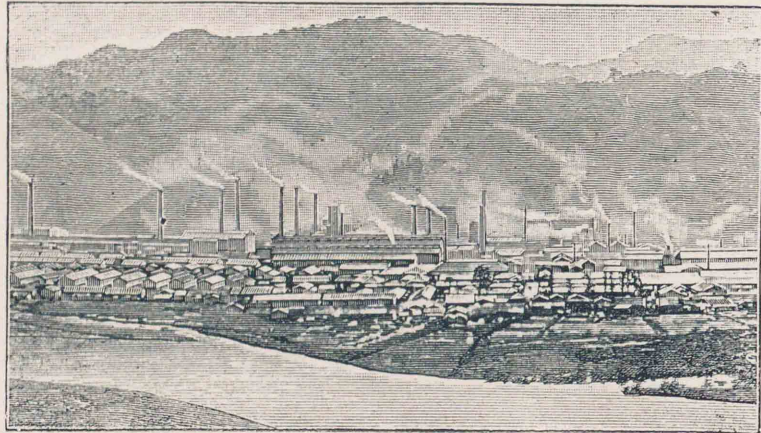
岩手縣 府縣中、面積最大、人口最稀薄である。海岸は、鋸齒狀
をなすが、北上山地に限られて、鐵道の便が少ない。爲に内地
第一の鐵山を控ふる釜石のみが、稍著しい都會である。

東北線の通る北上馬淵の二河谷は、稗馬を産し、平泉附近は
史蹟が多い。北上川上流の盛岡市は、縣廳、高等農林學校、鐵
道工場の所在地、南部鐵瓶馬の市場である。

青森縣 津輕海峽を隔てて北海道に對する本州最北の半
島で、中央山地には、八甲田山と風光明媚の十和田湖とがあ
る。東北線は、八戸と三本木牧場との附近を過ぎつゝ、青森
に至つて奥羽線に接續する。斧形の下北半島は、相似形の

管轄 陸前小部、陸中大部、陸奥小部、
面積廣大の府縣順位
位Ⅱ岩手・福島・長野・新潟、秋田
人口稀薄の府縣順位
位Ⅱ岩手・宮崎・秋田・青森・福島
△岩手山麓小岩井
農場等 ▲中尊寺の
金色堂は奥州藤原
氏全盛時の建築物
衣川 豪族安倍氏
の據りし處

×附近の石灰岩は
秋田縣内諸鑛山の
備材料となる



釜石鑛山製鐵所

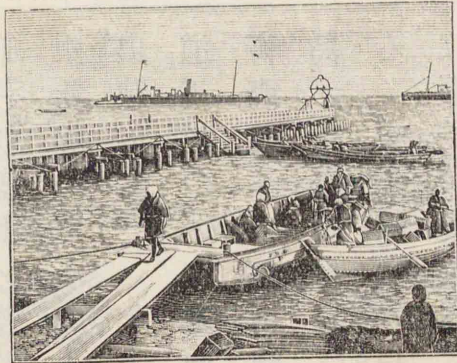


盛岡の馬市

管轄 陸中、小部、羽後、大部

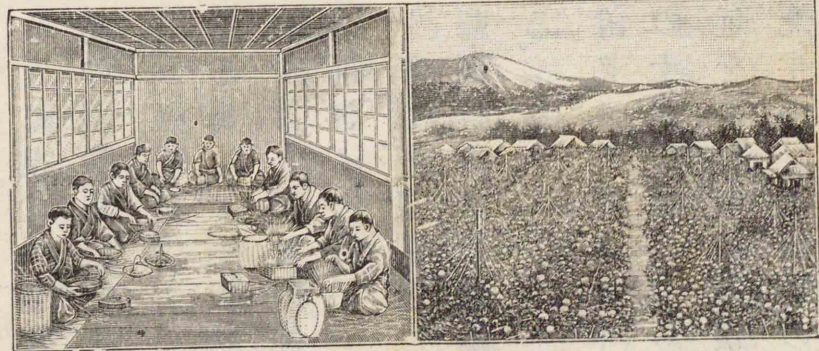
圖解下 林檎園と木通細工製造

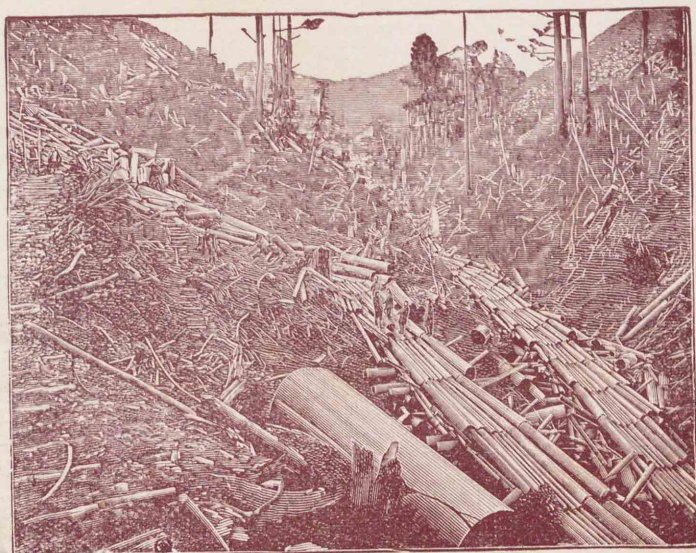
圖解上 青森の棧橋



百九十里、函館に連絡船を通ずる。弘前市は、西北に岩木山（津輕富士）を望み、第八師團司令部、高等學校のある處で、津輕塗、林檎木通細工の市場である。秋田縣 岩手縣と背（セ）中（ナカ）合せをして、長方

陸奥灣と大湊海軍要港とを抱き、近時、鐵道が通じた。羅漢（ラスナ）柏（カ）の美林で名高い津輕半島は、之に對して居る。陸奥灣西南隅の開港青森市は、縣廳のある處で、東京を距ること



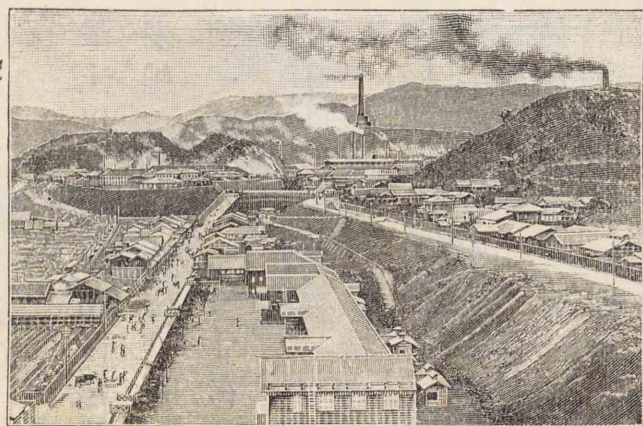


木伐の流上川代米



れ入庫穀米の田酒

圖解 小坂鑛山



×北西の風浪荒き
時は寄泊船は補助
港船川に避難

へ、挽材が盛である。雄物河畔の秋田市は、縣廳鑛山専門學校の所在地で、畝織大路を産し、其の外港の土崎附近は、石油坑(旭川)が多い。

形である。奇勝に富める男鹿半島は、日本海に斗出し、内に八郎瀉を抱いてゐる。中央山地には、小坂尾去澤などの鑛山が多く、銀銅の産額が多い、殊に小坂銅山は、本邦首位の銅山である。

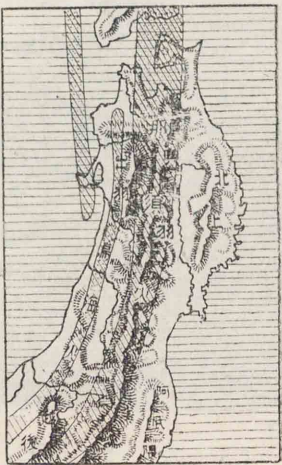
奥羽線は、大館より米能代川に沿うて下り、秋田平野を過ぎ、雄御物河谷の横手を経て山形縣に入る。能代川口の能代は、上流に杉の美林を控

管轄 羽後小部、羽前

×附近は櫻桃・薄荷の産地
*上杉鷹山の遺蹟地

圖解 奥羽地方地勢

六縣?



山形縣 宮城縣と背中合せをなし、北境に、鳥海山(羽後宮土)がある。最上川は、羽黒山・月山・湯殿山(以上の三山)の山續きと、中央山地との間を流れ、米産地の庄内平野を潤ウルホして、日本海に注いで居る。最上川口の酒田は、鐵道開通以來、米の船積みが減じた。奥羽線上の新庄は交通の要地、山形市は縣廳、高等學校の所在地である。米澤市は、高等工業學校の所在地で、絲織を出す。

第二節 概説

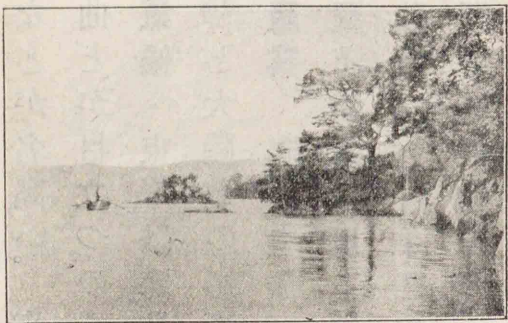
地域 奥羽地方は、古の陸奥及び出羽の地で、東北地方ともいはれ、面積は廣いが人口は少ない。行政上六縣に分れる。

山脈? 火山脈? 山嶽?

圖解 東部山地・中央山地・西部山地の南北斷面

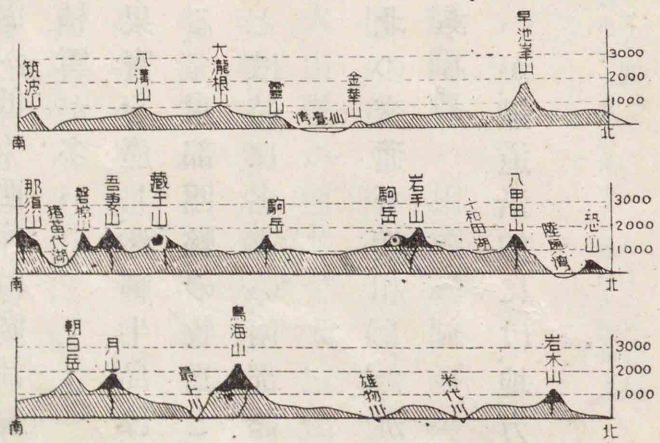
圖解 十和田湖の風光

湖沼? ×鱒類の養殖場



地勢 東部山地 北上山脈 阿武隈山脈 中央山地 奥羽山脈 那須火山脈 西部山地 出羽山脈 越後山脈 鳥海火山脈 は縦走して本地方の骨髄をなし、就中、中央山地は、最も雄大で諸川の分水界をなし、西部山地と共に、火山温泉が多い。北上 阿武隈 二川の縦谷と、能代 最上 阿賀 三川の横谷

谷には、平野が開けて、主要路が通じて居る。湖沼は、猪苗代湖・八郎潟・十和田湖



などが名高い。海岸は陸奥・仙臺の二灣と、岩手縣東岸の屈曲とが目立つのみで、屬島も乏しく、一般に單調である。
氣候 東岸は、寒流(千島海流)に洗れて氣温が低く、西岸は、暖流(對馬海流)と大陸との影響を受けて、冬季に積雪が多い。

産業 概して振はないが、米・馬鈴薯・果實を産し、津輕半島に羅漢柏、能代川上流に杉の美林がある。東部四縣の牧馬と、秋田(銀銅)・岩手(鐵)・福島(炭石)三縣の鑛産とは、特に名高い。南部諸縣の絹織物の産も著しい。

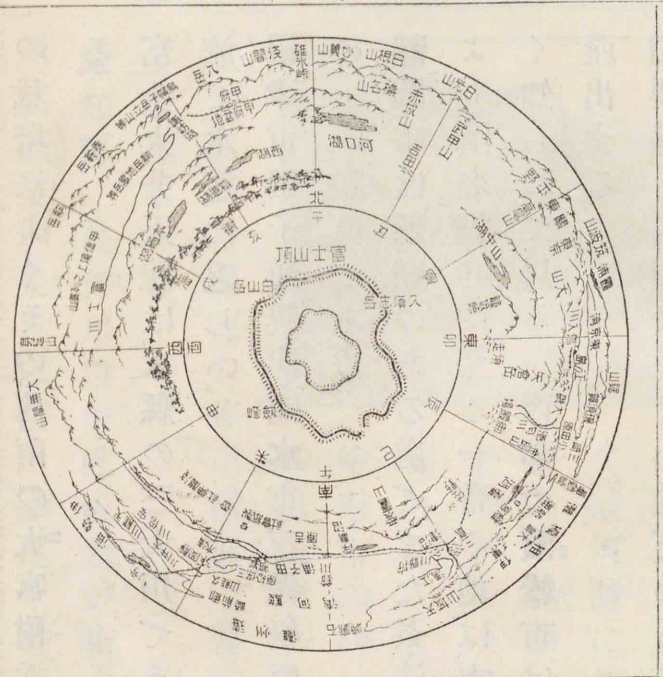
交通 東北・奥羽常磐の三幹線は、南北の交通を緩和したが、東西の連絡は、海運と同じく不便である。
都邑 仙臺市の外、大なるものはないが、鐵道沿線には、地方的の市邑が散在してゐる。

×白河・鍛冶屋澤・三本木・七戸に軍馬育成所がある

*磐越・陸羽二線等あるのみ
開港は青森のみ

管轄 伊豆・大部、駿河・遠江

×間歇泉
圖解 富士山頂の視域



第三章 本州中部地方
第一節 處誌

面積 四三万平方里
隣境 關東地方・奥羽地方・日本海近畿地方

靜岡縣 相模灘・駿河灣間の伊豆半島には、富士火山脈が通じて、天城山が峙ち、熱海・修善寺などの温泉が多く、南端に名高い下田港がある。東北境の富士山は、直立一萬二千五百尺、實に世界の名山、缺尖圓錐形の好模型で、其の祐野は、三楹

×動力には富士の伏流を利用す

*茶の輸出多き開港

の栽培によく、その西南の大宮附近は、西洋紙の主産地である。富士・大井・天龍は、本縣の三大川であるが、惜しいかな概ね急流で、水運に乏しい。沼津市・田子浦・興津・清水市・三保松原のあたりは、富士の眺めのよい勝區である。

静岡市は、縣廳のある處で、また茶漆器の市場である。此の處より濱名湖畔に至る一帯の地は、本邦一の製茶地として、普く知られて居る。西部の濱松市は、樂器・帽子・織物(遠州太物と形染)を産出する。

山梨縣 四周は、悉く山地である。域内は、笹子峠によつて、甲斐絹(氣海)を産する郡内と、甲府盆地とに分れてゐる。富士の北麓には、湖沼が多く、山中湖から出る桂川は、猿橋の奇勝を

管轄 甲斐

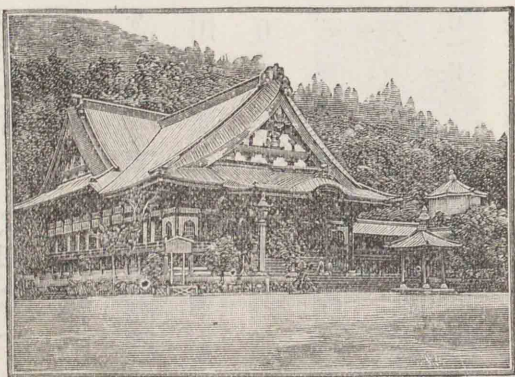
・帝國最長の隧道
長さ三哩汽車通過
八分△谷村は其の
取引中心
×馬入川の上流

×日蓮宗の本山久遠寺のある處

圖解 身延山久遠寺

*東北方の金峯山麓の御岳には昇仙圖解 勝沼の葡萄園
境の奇勝がある

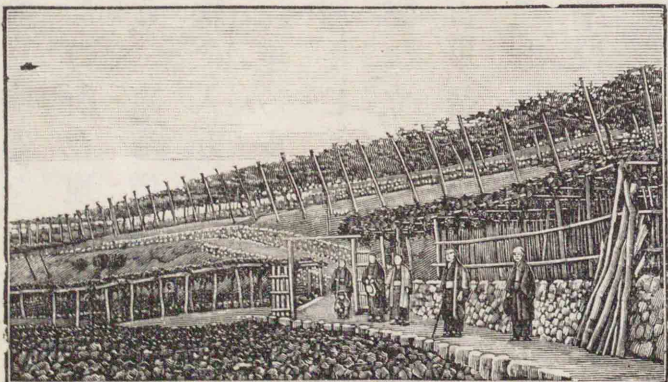
管轄 三河尾張



なし、水力電氣を東京市に供給する。富士川は、甲府盆地の諸水を集め、身延山の東を南流して駿河灣に注ぐ、河畔の鰍澤は、富士川下りの起點である。

*甲府市(縣廳所在)は、生絲・絹織物・水晶細

工で名高く、東方の勝沼附近は、葡萄の多産地である。愛知縣 矢作川以東は、山地が稍多く、製絲機業が榮え、以西は濃尾平野に屬



× 北方に豊川稻荷と風來寺山(塊状火山)がある

* 濶業地、尾西線の起點

△ 清酒

× 東海道線・關四線・中央線

* 舊城内に師團司令部天主閣に離宮がある

● 八高・高工・高商

● 縣立大

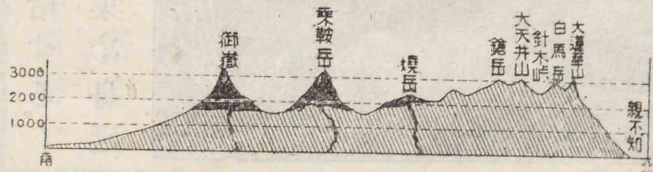
● 本縣には小牧・長久手・桶狭間・長篠などの史蹟が多い

管轄 岐阜 飛騨

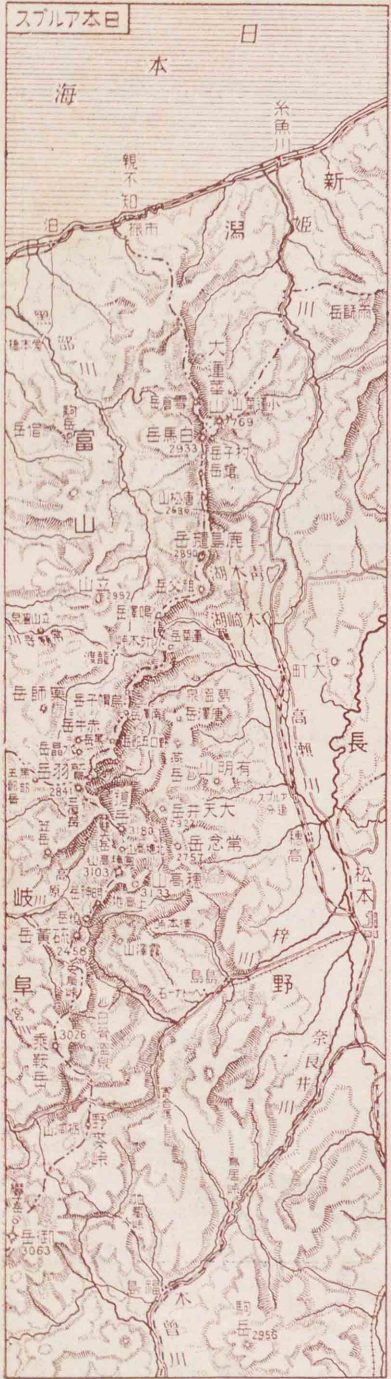
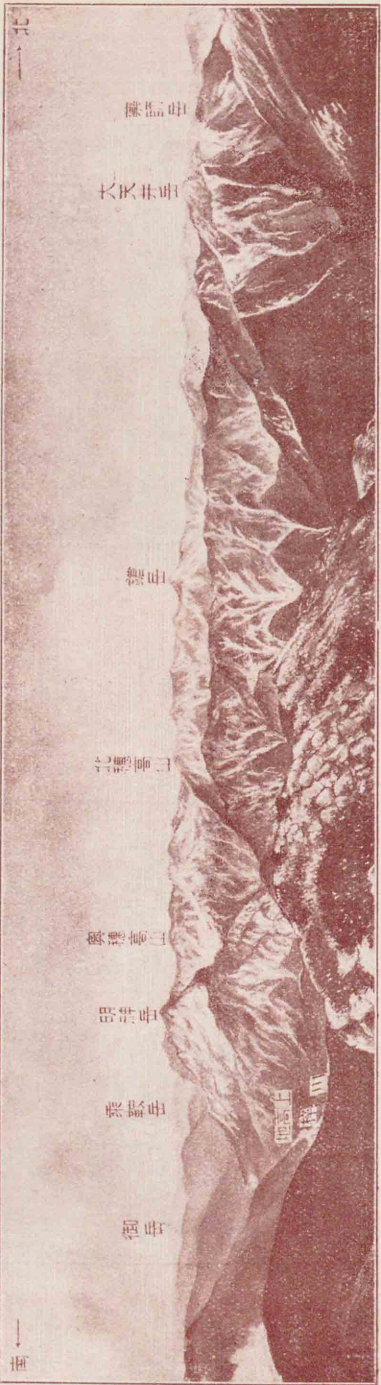
● 圖解 日本アルプスの南北断面

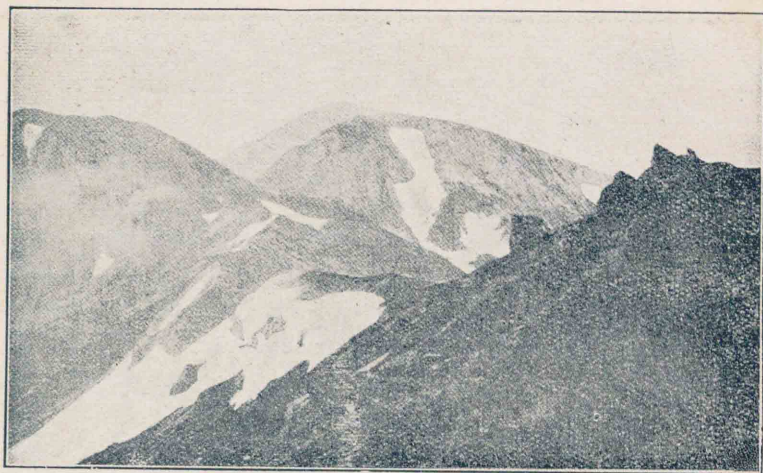
して、農工商の活潑な地方で、米麥綿紡織品陶器を出す。豊川下流の豊橋市は、第十五師團司令部の所在地で、矢作川中流の岡崎市は、徳川氏の創業地である。東海道線は、豊橋岡崎名古屋一宮の四市等を経て岐阜縣に入り、中途大府から、知多半島東岸の開港武豊に至る支線がある。この支線上の龜崎・半田は、醸造地として名高い。開港名古屋市(中)は、三鐵道の會點に立ち、徳川親藩の舊城地で、東京を距ること約百里、帝國第五の大都會で、綿製品車輛雜貨(時計扇機)を産し、縣廳第三師團司令部控訴院熟田神宮高等諸學校等がある。市の東北なる瀬戸は、中央線上の多治見(縣下)と共に、陶器の産が多い。

岐阜縣 東北部は飛騨高原で、長野縣境の日本アルプス



帝念岳より西面して見たる日本アルプス諸山





岳馬白



岳御

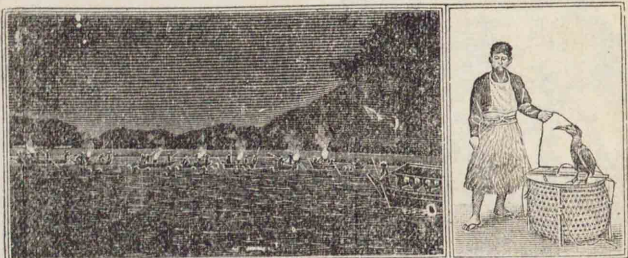
へ上流地方 美濃
紙の主産地
長野縣境の中津に
製紙産地

圖解 鶴と鶴飼

* 南方に養老瀧の
ある大公園がある
・ 水松細工・飛騨
織をも産し木材を
取引する

圖解 岐阜の紙
製品

管轄 信濃



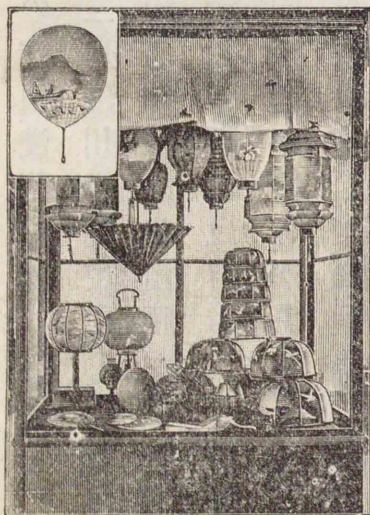
春慶塗を産する。

長野縣

本州の略中央にあつ

て、八縣十國と界する高原性の

ルプスには、鎗嶽、乘鞍嶽、御嶽等の高山があ
る。西南部は、濃尾平野に屬し、美濃米の産
地である。木曾川は、こゝで飛騨、長良、楯斐等
を容れて南流する。岐阜市(縣廳所在)は、鶴飼と
縮緬紙製品(提燈傘等)の産とて名高い。大垣
市は米の取引地、關原は天下分け目の古戦
場である。神通川上流の高山は、南に位山
(水産地)、遙(ハルカ)の北に
神岡鑛山を控
へて、生絲及び

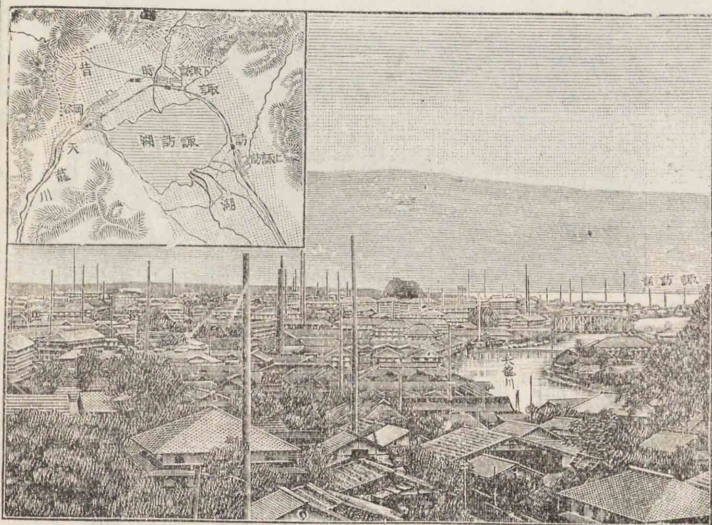


×信玄・謙信の激戦地

*伊那谷・木曾谷
・諏訪平・松本平
善光寺平・佐久平

圖解 岡谷

×袖を出す



大縣で、縣境には、日本アルプスの諸山、淺間・赤石・八ヶ嶽などの高山が聳えてゐる。犀千曲の二川は、川中島で會し、天龍木曾の二川は、木曾山脈を挟みて南流し、本縣には、自ら二つの谷と、四つの平野とがある。地味は、農桑に適して、繭生絲・蠶卵紙の産額が、全國無比である。木曾川と中央線とは、木曾山中の檜材を運搬し、諏訪湖は、日本第一の製絲地、岡谷を控へ、製氷・氷滑に名高い。犀河畔の松本市(高等學校所在)と千曲河畔の上田市(蠶絲專門學校所在)とは、繭蠶卵紙の市場

×中央線の鹽尻まで篠井線を通ず

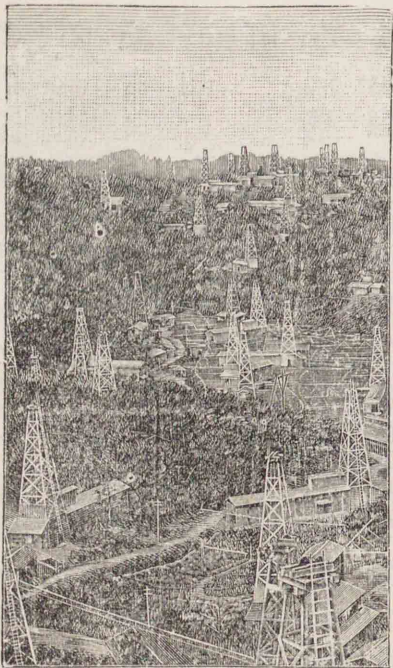
*南方に天龍峽の勝地あり・南方に寢覺床の勝地あり

管轄 越後佐渡

△中部地方以外に新津・油田・頸城油田もある

圖解 油井櫓

×佐渡は錫・鮑を産し、金坑を控ふる相川の名邑がある



である。信越線は、淺間山を右手にし、輕井澤(避暑地)・上田・篠井・長野を経て新潟縣に入る。善光寺平の長野市(縣所在)は、善光寺詣での善男・善女で賑ひ、飯田は伊那谷、福島は木曾谷の中心である。

新潟縣 阿賀・信濃の二川は、南部の山地を突破して、越後平野を開く。平野の越後米と、中部地方の石油との産額は、全國中第一である。

信濃川口の開港新潟市(縣廳・醫大・高等學校所在)は、米・石油の取引地であるが、土砂が堆積し、且つ風浪が荒い。故に佐渡の開港夷を補助港とする。三鐵道會點

×新發田と共に米の取引多し

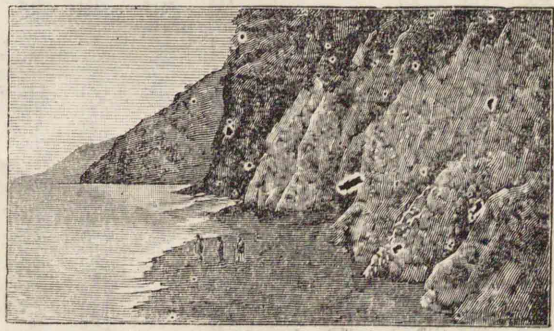
圖解 親不知

五泉は機業地三條は及物産地
村上は鮭産地

△郊外の春日山は上杉謙信の舊城址

管轄 越中

の新津は石油坑を控へて將來有望である。東山油田を控ふる長岡市は、水陸の便もよく、西山油田を控ふる柏崎と共に、石油の取引が多い。其の南の小千谷十日町(以上越後後縮)は、機業地である。新潟に起る信越線は、新津で村上線磐越線柏崎で北越鐵道直江津で北陸線を分つ。北陸線は親不知の崖岸を経て富山縣に入る。直江津は、南越北信に關する貨物の集散地で、深雪とスキーとに名高い。高田市は、第十三師團司令部の所在地である。



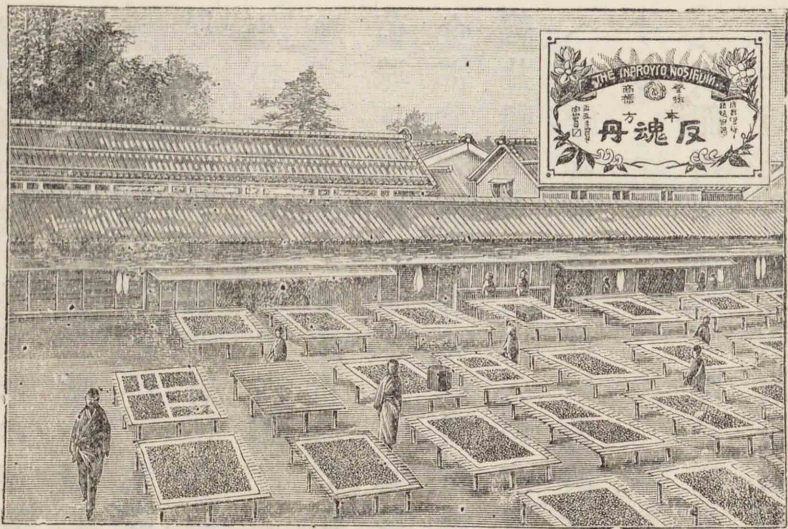
富山縣 三方に山を繞らし、殊に東部の日本アルプス中には、立山・大蓮華山・白馬嶽などの高山峻嶽が屹立する。庄(射水)

×其の峡谷に愛本の奇橋を架す

圖解 富山の製藥所

中越鐵道の南端城端附近に機業地として名高い
●漁業で炭氣樓に名高い所

管轄 能登加賀



神通常願寺・黒部の四大川は、越中米産地の越中平野を潤して富山灣に注ぐ。製藥に名高い富山市(縣廳所在地)は、神通川に跨り、縣の中樞地で、其の賣藥行商は、支那南洋にまで及んでゐる。庄川に臨める高岡市は、開港伏木を控へて、羽二重銅器漆器を産し、水陸交通の要地である。北陸線は、魚津・富山・高岡を経て、俱利伽羅峠の隧道に入る。石川縣 南境の山地には、高い

本縣には山代・山中(漆器産地)粟津などの温泉もある

×漆器・銅器・金銀箔をも産す

*醫大・四高・高工

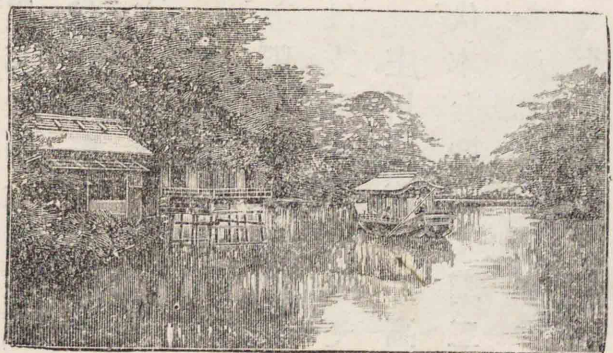
圖解 笨六園

管轄 若狭・越前

白山がある。手首形の能登半島は、佐渡を招く如く見える。手甲の輪島は、輪島塗を産し、掌中の開港七尾は、日本海の要津で、和倉温泉に近い。北陸線は、七尾線と會し、瀉の多い海岸を西南して福井縣に入る。線上の金澤小松大聖寺は、何れも羽二重九谷焼の産地である。また金澤市は、前田侯百萬石の舊城下、北陸の最大都で、縣廳第九師團司令部兼六園高等諸學校がある。

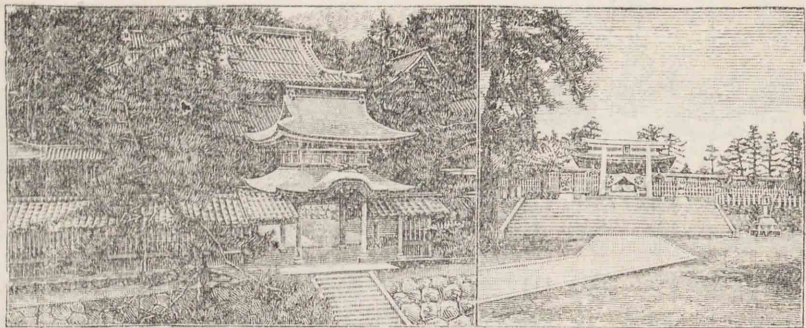
福井縣 若狭は、出入の多き若狭灣を控へ、鯛・鰯と、小濱附近の若狭塗とを名産とする。

九頭龍川本支流の開ける越前平野の福井附近と、山地の大野とは羽二重、武生は



×別格官幣社で新田義貞を祀る
*曹洞宗の本山
•金崎宮と氣比神宮とがある

圖解 藤島神社と永平寺



紙(奉書・麻蚊帳)を産する。福井市は、縣廳藤島神社の所在地で、東方に永平寺がある。敦賀は、敦賀灣に臨み、日本海岸第一の開港である。北陸小濱二線の會點に立ち、又浦鹽斯徳に定期船を通じて、歐洲との交通の一門戸である。

第二節 概説

地域 中部地方は、本州中、幅員最大の部で、關東・奥羽二地方と近畿地方との間に挾つて、行政上九縣に分れる。

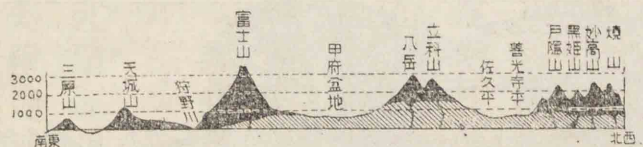
地勢 東北派と西南派との山系の會する所で、地相が極めて錯雜してゐる。本

東
西
九縣?
北陸
山系

山脈？
火山脈？
日本アルプスの名山？

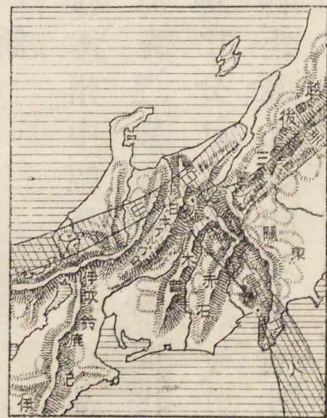
圖解 本州中部
地方の地勢

圖解 富士火山
脈の南北断面



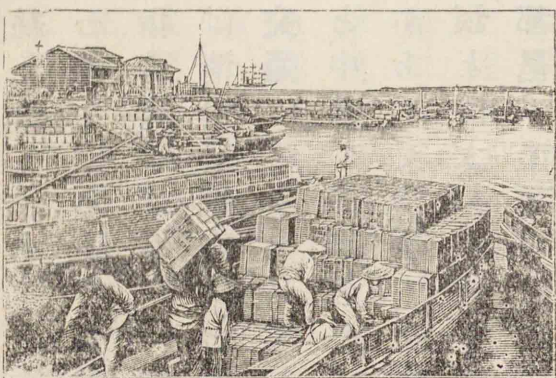
邦一の高峯峻嶽に富める日本アルプス(飛驒山脈・乗)は、兩越・信飛の國境を南北に走り、西に飛驒高原を控へ、其の東南に、木曾・赤石の兩山脈が竝走して、東境の關東・越後兩山脈に對峙する。又富士火山脈は、遠く南洋より來りて、中部を横斷する。此の外、西北に白山を主峯とする白山火山脈と、東境に淺間山を起せる那須火山脈とがある。

河流の大部は、中央の山地より發する急流で、屢水害を起すこともあるが、信濃川や木曾川は、下流に廣大なる平野を開いて、農産上の寶庫を爲してゐる。



*渥美・知多兩半島間に三河灣凹入

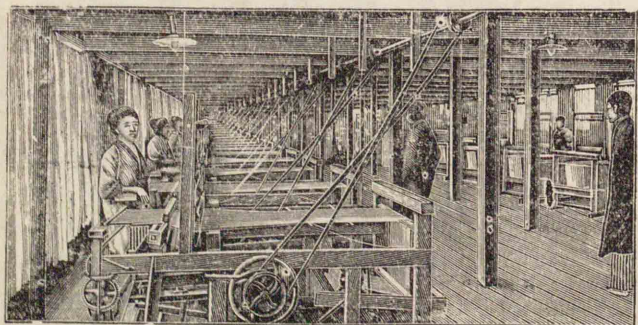
圖解上 清水の
茶積み出し
圖解下 製絲場
内部



る。湖沼は、諏訪湖・濱名湖が著しく、日本海岸には瀉(湖澤)が多い。海岸は、日本海面の能登半島・富山灣と、太平洋面の伊豆半島・駿河灣とが、南北に相對する。若狹灣と伊勢海との間は、本州の最狹部を爲してゐる。

氣候 南部は温暖、適雨、中部は夏熱冬寒である、北部の冬季は、深雪・高浪が、住民の活動を妨げる。

産業 農産は、越後・越中・濃尾三平野の米・静岡縣の茶、長野・愛知・山梨三縣の生



×伊那谷・飛騨高原等の別天地に交通便ならず

絲を主とし、木曾天城の木材、駿豆の水産も著しく、新瀉縣の石油と金、北陸諸縣の絹織物、愛知縣の綿紡織陶器などは、屈指の産物である。商業は、名古屋附近が最も盛大で、其の港は清水・武豊・敦賀・七尾・新瀉夷と共に開港である。
交通 略中央高地の周邊を繞れる東海道・信越・北陸の三線と、中部の高地を通ずる中央線と、これらと連絡する諸線とがあつて各地の交通は、概ね便利であるが、北面の積雪と風浪とは、大に水陸の交通を妨げる。
都邑 産業の繁榮に伴つて、都邑も相當に發達してゐるが、大都會は、名古屋のみで、これに次ぐのは金澤・新瀉である。

第四章

近畿地方

面積三三方里
隣境本州中部地方日本海中國地方瀬戸内海太平洋

人口九二萬人

第一節 處誌

管轄 近江

×北に竹生島がある

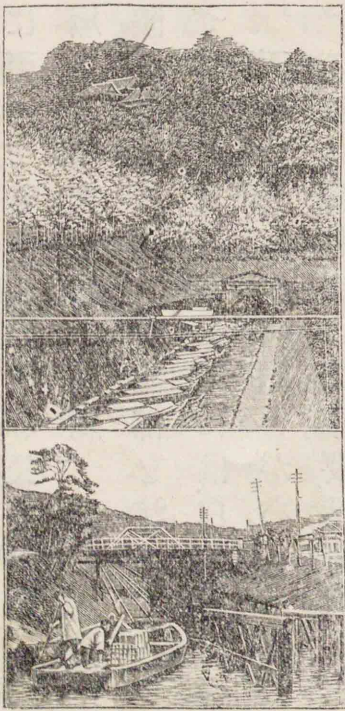
*瀬田夕照・粟津晴嵐・矢走歸帆・唐崎夜雨・堅田落雁・石山秋月・三井晚鐘・比良暮雪

△日野と共に近江商人の郷土で近江蚊帳の産地

圖解 疏水の入
口と出口

×京都市諸工業の動力ともなる

滋賀縣 山地が四周し、其の中央には、帝國最大の琵琶湖がある。湖畔の平野には、近江米を産する。琵琶湖は、周回六十里、名高い近江八景を控へて、廻遊汽船さへ備はり、舟運・灌漑の便に富み、湖水は、疏水と勢多川との二吐口により、末は大坂灣に注ぐ。
北陸線は、賤岳の附近を過ぎ、濱縮緬で名高い長濱を経て、米原に終る。之に接續する東海道線は、彦根・八幡章津(以上鐵道分岐點)・大津・逢阪山隧道を経て、京都に入る。
湖の西南隅の大津市は、縣廳・製麻工場所在地である。市の北部に起る疏水は、長等山



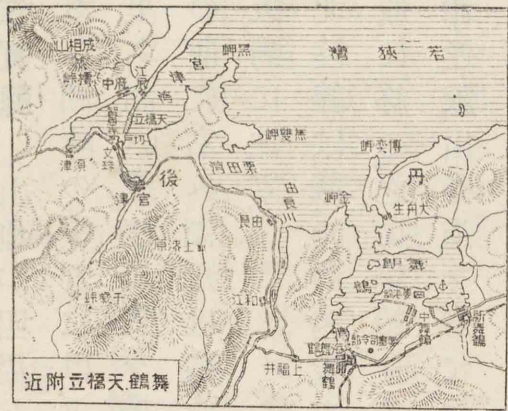
*一名園城寺

管轄 山城・丹波
大部・丹波後

*西北の峯山は丹波縮緬の産地

●舞鶴・中舞鶴・新舞鶴あり

△下流を桂川上流を大堰川といふ



近附立橋天鶴舞

の隧道に入り、京都市に至って賀茂川に入る。長等山麓の三井寺と、比叡山上の延暦寺とは、天台宗の巨刹である。京都府 由良川は、丘陵や山地の多い西北部を流れる。其の吐口附近は要塞地帯で、其の西方の宮津灣には、白砂青松の

天橋立と開港宮津とがある。東方の軍港舞鶴には、海軍要港がある。東南部は、山河襟帯の山城盆地で、宇治・賀茂・桂の三川と、笠置山附近を流れて来る木津川とは、巨椋池附近に會して淀川となり、八幡・山崎の關門を経て大阪灣に注ぐ。東海道線は、淀川に沿うて大阪市に入り、京都に起る山陰線は、奇岩怪石急湍に富める保

△△△△

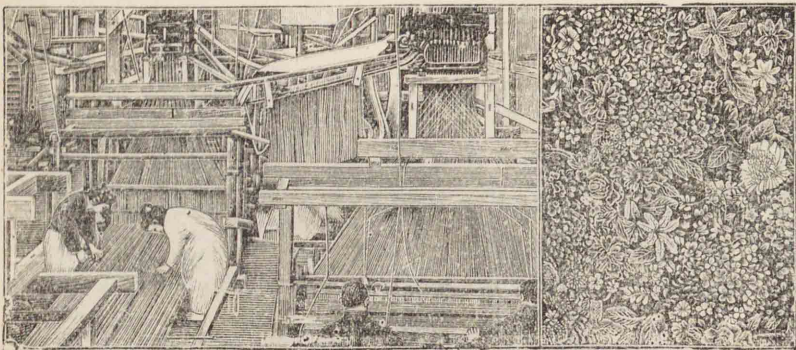
二條及び修學院

離宮・三十三間堂・豐國神社・清水寺・八坂神社・圓山公園・知恩院・銀閣寺・北野神社・嵐山・學校

大・高等工藝・同志社大學

圖解 西陣織

*綾・錦・金襴・綴子・縮緬などである
*扇子・團扇を産す又伏見と共に人形をも産する



津川岸を西北走して、福知山・舞鶴の二線に接続し、奈良線は、伏見・宇治の二名邑を経て奈良縣に入る。賀茂川に跨れる帝國第四の大都市は、東京を距ること百四十里で、町筋正しく、一千餘年間の帝都、二百年間幕府の所在地で、名所・舊蹟・神社・佛閣の多いことは、他に比類なく、京都御所・府廳・皇室博物館・第十六師團司令部・平安神宮・金閣寺・東西本願寺・高等の諸學校があつて、西陣織友禪染・刺繡・陶器(粟田焼)・京塗などを名産とする。南隣の伏見は、大阪に汽船を通じ、桃山御陵に近い。螢狩に名高い宇治の附

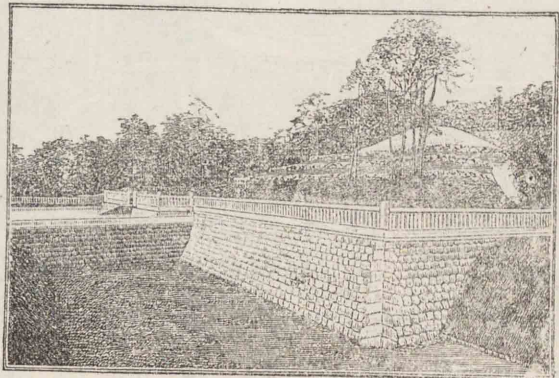
管轄 大和

*日本最古の木造建築物で聖徳太子の建立

圖解 桃山御陵

*春日神社・東大寺・正倉院・興福寺・嫩草山等
奈良名産 筆・墨・根來塗・鹿角細工・奈良人形・奈良漬

●藤原鎌足を祀る



にて和歌山線を分つ。櫻井線上の櫻井附近は、綿紡織業地
で、南方の多武峯には、談山神社がある。
南部は、山上嶽・彌山・大臺原山などが峙って土地が高く、杉林

近は、史蹟(平等院・鳳凰堂等)と玉露茶の産とが多

い。木津は、三鐵道(奈良・關西・片町線)の會點にある。

奈良縣 大和川流域の大和盆地は、昔

時、帝都であつた處が多いので、神武天

皇を初め、歴代の御陵や、橿原神宮、法隆

寺などの社寺、古蹟が頗る多い。殊に奈

良市は、七代の帝都として、史蹟多く、縣

廳、帝室博物館、女子高等師範學校など

がある。關西線は、奈良郡山を経て大

阪府に入り、途中奈良にて櫻井線、王寺

にて和歌山線を分つ。

櫻井線上の櫻井附近は、綿紡織業地

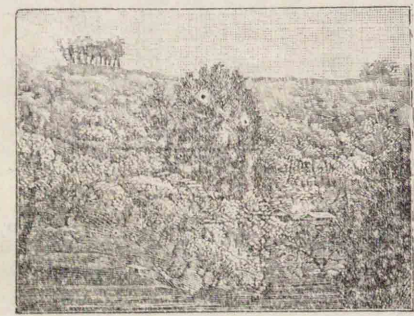
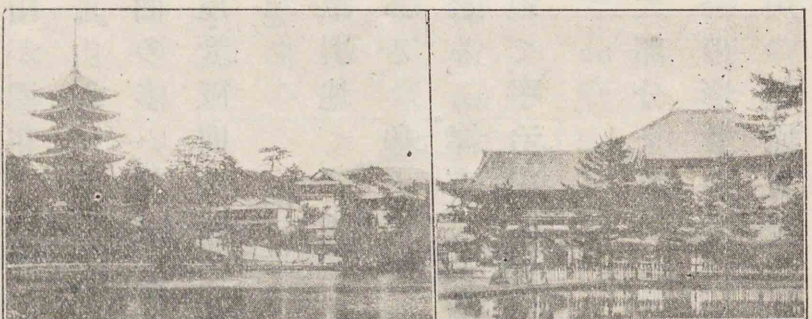
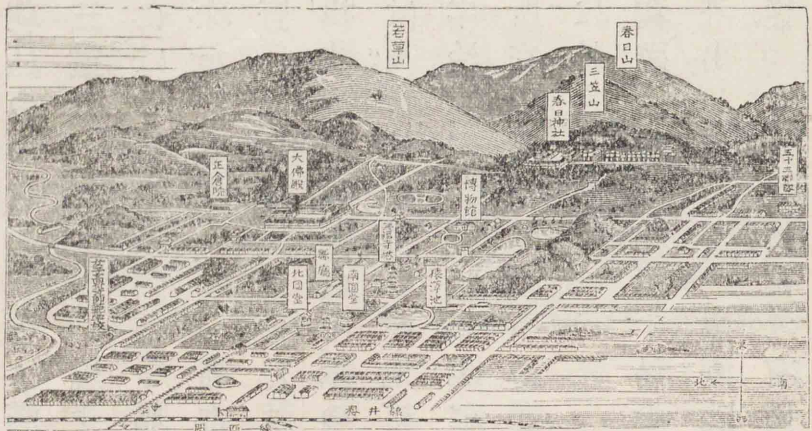
で、南方の多武峯には、談山神社がある。

南部は、山上嶽・彌山・大臺原山などが峙って土地が高く、杉林

*これはくよば
かり花の吉野山
(安原貞室)

圖解 奈良の全
景と東大寺と興
福寺

圖解 左下 吉野
山の櫻花満開



が茂つて、十津川
(熊野川) 吉野川 (紀川
の上流) は、木材を運搬す
る筏流しで名高
い。吉野川南岸
の吉野山は、吉野

管轄 伊賀・伊勢
志摩・紀伊
小部
* 英虞灣に三木木
氏經營の眞珠貝養
殖場がある

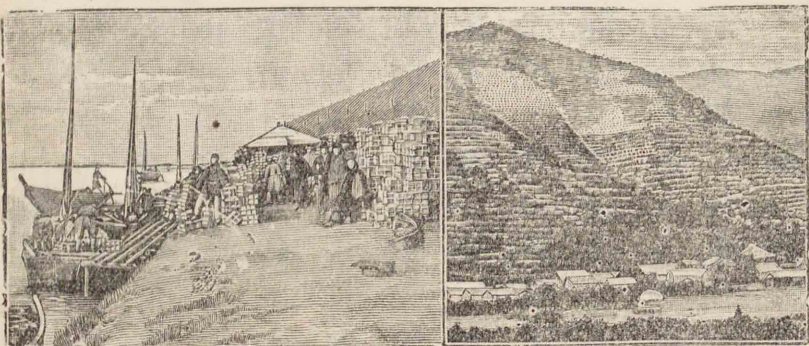
* 日和山は眼界廣
き絶勝地
● 海岸の阿漕浦は
海水浴場に名高い
△ 本居宣長と富家
三井家の故地
管轄 紀伊
大部

朝廷の由緒地ユキシヨで、春は満山が、櫻花と観客とで埋まれる。
三重縣 奈良縣と境する山地には杉材を、伊勢海岸の平野
には伊勢米・茶菜種を、屈曲の多い熊野灘の沿岸には、鯉・鯨・眞
珠などを産する。名古屋・大阪間の關西線は、桑名・四日市上
野(近)を経て京都府に入る。
揖斐川口の桑名は、米の取引地で、帝國屈指の開港**四日市**市
は、萬古燒・綿絲の産地である。龜山以南の參宮線は、津松坂
宇治山田を経て鳥羽に終る。津市は縣廳高等農林學校の
所在地、松坂は綿布の産地で、**宇治山田市**の宇治に内宮、山田
に外宮がある。
和歌山縣 紀伊半島の大部分を占めて、本州最南の潮岬が
斗出してゐる。黒潮クロシホの影響を受けて高温多雨である。
従つて木材に富み、有田川の流域は、紀州蜜柑の本場である。

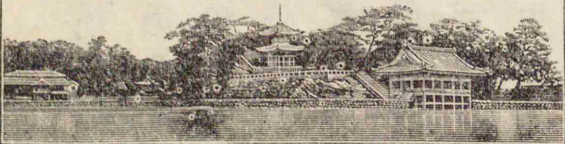
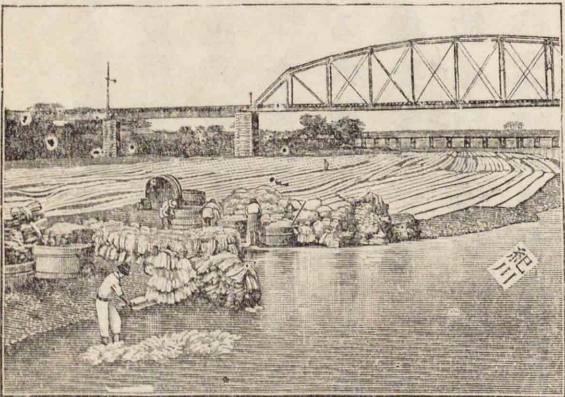
* 瀑布多く俗に那
智四十八瀧といふ
* 金剛峯寺は僧空
海の開基

圖解 箕島の蜜
柑の積出しと蜜
柑畑

圖解 紀川の木
綿晒しと和歌の
浦



熊野川口の新宮シンクウは、熊野川下しの木材取
引地で、那智山中には、天下に名高い那智
瀧がある。和歌山線は、運材多き紀川と
併んで高野山を南にし、和歌山で南海線
と會する。
和歌山市 (縣廳)
在は、徳川親
藩の舊城下
で、和歌浦の
勝地と、黒江
の漆器産地
とに近く、木
材・綿フラン



管轄

河内・和泉
攝津東半部

ネルの市場である。

大阪府 小船舶形をして、卵形の大坂灣を控へ、三方の山地以

外は、大和・淀二川等の流域の大坂平野である。東南境の金剛

山は、四條・曙・櫻井と共に、楠氏の遺蹟地である。南海線上の

堺市は、清酒・段通・刃物・セルロイドを産する。

帝國第二の大都、第三の開港たる大阪市は、東京より百五十

里、淀川の本分流に跨つて、溝渠・橋梁多く、水の都の名さへあ

る。帝國第一の工業地で、特に綿紡織・精糖などが榮え、百貨の

取引が多く、市内に、府廳・大阪城(第四師團司令部所在)・造幣局・砲兵工廠・高

等諸學校がある。近郊に箕面・寶塚(兵庫縣)・濱寺などの保養地が

ある。

兵庫縣 中部山地の北側は所謂神戸牛の主産地で、大坂灣

と播磨灘に面する南側には、加古川・市川などの下流に、播磨

* 醫大・高等學校・
高工(昇格せん)・高
商・外語
市の北にある吹田
は麥酒の産地

管轄 攝津西半部
丹波小部
但馬・播磨・
淡路

* 要塞地帯

平野が開けて、米・麥を産する。明石・紀淡・鳴門の三海峡によ
つて、大坂灣・紀伊水道・播磨灘が限られる。淡路島に、淡路燒
綿絲を産する洲本がある。

尼崎市は、大阪工業地帯の一部として、急速に發達した都市

で、其の西の西宮地方(通稱)と伊丹とは、清酒を産し、六甲山の

北より東に點在する有馬・寶塚・平野に、炭酸泉が湧出する。

神戸市は、神戸兵庫の二部より成り、内外航路の中心地で、銅・

綿絲の輸出、綿鐵材・鐵器の輸入が頗る多く、其の貿易額は、横

濱の壘を摩しつゝある。市には、造船・燐寸・樟腦精製・綿紡織な

どの工業が榮えて、縣廳・湊川神社・高等商業學校・高等工業學

校・二大造船所がある。山陽線は、舞子・明石市などの風光明

媚な海岸を経て、姫路に赴き、更に醬油産地の龍野と、製鹽地

赤穂との附近を過ぎて、岡山縣に入る。

● 平野水の産地

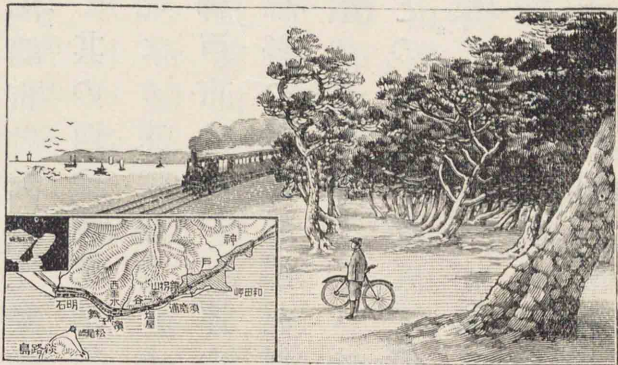
△ 東京を距ること
百六十里

* 商大に昇格せん

川崎造船所(神戸)
三菱造船所(兵庫)

圖解 舞子の風光

×附近に玄武洞の奇勝がある
日本海岸の餘部に内地の最大陸橋がある



二府・五縣?

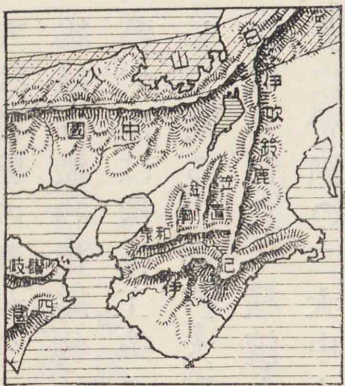
姫路市は、第十師團司令部のある處で、革細工の名産がある。市の南の飾磨より北上する播但線は、銀銅産地の生野を過ぎて、山陰線に接続する。朝來川と山陰線とに沿うて、柳行李産地の豊岡と、温泉地の城崎とがある。出石は、出石焼の産地である。

第二節 概説

地域 本地方は、もと帝國の中樞であつた畿内と、其の隣接地とを含んで、行政上二府五縣に分れ、各府縣とも、面積の狭小、人口の稠密の點が、關東地方に似てゐる。

圖解 近畿地方の地勢

×近江・大和・山城
*伊勢・大阪・播磨



地勢 東西に亘れる北部の中國山脈、白山火山脈と南部の紀伊和泉の二山脈との間を、伊吹・鈴鹿・比叡・笠置・金剛の五小山脈が、南北に走つて、其の間に、三つの盆地と、平野とが、峽谷で互に連つてゐる。河流は、縦横に流れてゐるが、水利に富めるは、水産と風光とを備ふる琵琶湖と、淀川の



本支流とのみである。海岸は、日本海に與謝半島が斗出して、舞鶴・宮津の二小灣を抱き、太平洋面には、紀伊半島の外に、熊野灘と伊勢海とを分てる志摩半島がある。西面は、大阪灣と播磨灘とに沿ひ、其の海半には、勝地と漁鹽の利に富む處とが多い。

氣候 南部は高温多雨で、北部は冬季に雨雪が多い。中部は、海岸地方の外は、寒暑の差が稍著しい。

産業 農牧共に開けて、西部高地の牧牛を初め、所在の盆地や平野は、米・麥・茶・菜種の栽培に適し、殊に兵庫縣は、米・麥の産地として名高い。木材や柑橘類は、南部の三縣に多く、沿海地方は、漁鹽の利が少くない。商工業は、京阪神地方に榮えて、綿絲・綿織物・絹織物・清酒などの産が多く、殊に京都は美術工藝、大阪は機械工業の中心地で、阪神間は一大工業地帯をなして居る。神戸・大阪・四日市は、帝國樞要の港市で、神戸は外國貿易に於て横濱と伯仲し、大阪は、内地商業に於て、東京と共に帝國の二大中心である。

交通 鐵道は、關東地方に次でよく發達し、東海・山陽の二幹線は、關西・山陰の二線と併走し、且つこれらに連絡する諸線

×熊野の鯨・鮭・鱈
瀬戸内海の製鹽・鯛・鮓

×大阪を中心として
京都・大津・神戸
明石・奈良・姫路
高野・和歌山等の
方面

が多い。電車は縦横に通じて、關東地方よりも發達してゐる。海運も、阪神二港と四日市を中心として、内外の航路が發達して居る。

都邑 本地方は、古來長く帝都のあつた關係上、由緒ある都邑が多いが、大都市は、京・阪・神の三都のみである。

第五章

中國地方
四國地方

面積 三三万平方里
隣境 日本海 近畿地方 瀬戸内海 下關 海峽
面積 三三万平方里
隣境 瀬戸内海 紀伊水道 太平洋 豊後水道 速明海峽
人口 三〇七萬人

第一節 處誌

鳥取縣 中國山脈で岡山縣と相背き、西部に、中國最高の大山と、史上に名高い船上山とがあつて、千代・天神・日野の三流域に分れてゐる。千代川下流の鳥取市(縣廳・高等農業學校所在)は、賀露を外港として居る。市を過ぎれる山陰線は、天神河畔で倉吉

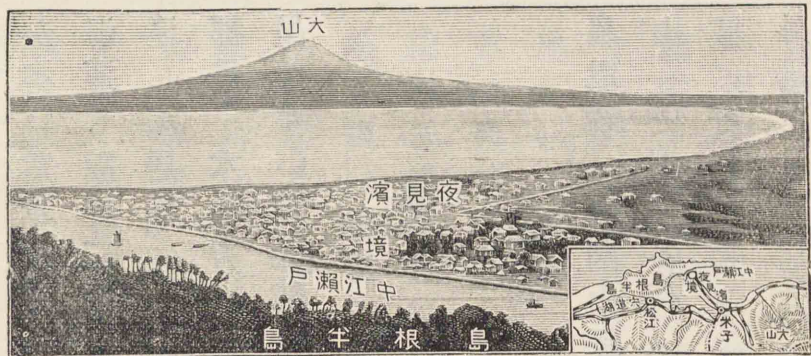
管轄 因幡・伯耆

*伯耆富士又は出雲富士ともいって其の裾野には牛馬の牧養が盛である
×生絲と絹との産地で近く三朝のラシウム温泉がある

一名大天橋ともいふ
管轄 出雲・石見・隱岐

圖解 大山境附近

石見半紙・薪炭の市場



に、日野河畔の米子で、夜見濱北端の開港境に、支線を分けて居る。
島根縣 中國山脈で、廣島縣と相背き、島根半島は、中海と宍道湖とを抱き、其の沖の隱岐諸島は、後鳥羽後醍醐二帝遷幸し給ひ、錫の産て名高い。山陰線は、安來松江を経て、開港濱田に達し、中途杵築に支線を分つて居る。
宍道湖口の松江市(縣廳高等學校所在)は、遠く大山三瓶山を望み、山水の風光がよく、山陰の最大都である。神代史に關係の深い斐伊川の下流に、出雲平野がある。平野西端の杵築に、出雲大社がある。江川は、中國の

管轄 周防・長門

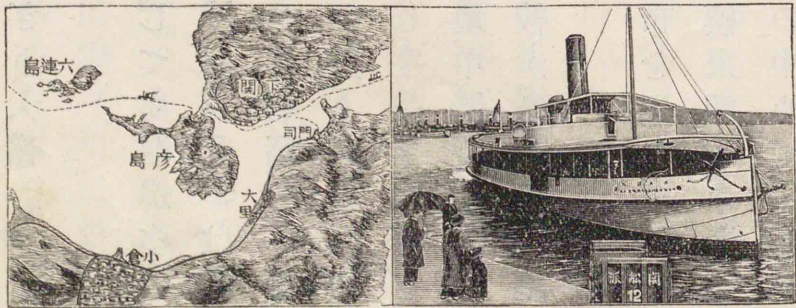
圖解 關門連絡線と下關海峽

日本海上の見島附近に日露海戦地

名産赤間關硯

防府の一部

最大河で、大麻・牧牛の多い三次(廣島縣附近)附近の水を集めて、中國山脈を横ぎれる唯一の河である。
山口縣 本州の西南端、防長半島の地で、日本海と瀬戸内海とに臨んで、漁業・製鹽が盛である。日本海岸の萩は、毛利公の舊城地で、夏橙・萩焼を産し、山口は縣廳、高等・高商二校の所在地である。開港下關市(一名馬關)は、瀬戸内海西門の下關海峽に臨み、東京に急行列車行程約一晝夜で、關門・關釜の二連絡船さへあつて、附近には、壇浦古戰場と要塞とがある。市に終る山陽線は、小野田(セメント産地)・宇部市、製鹽地の三田尻、海軍燃料廠のある徳山、錦



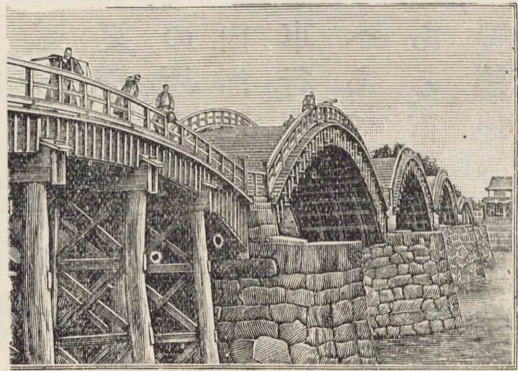
*岩國縮・蚊帳を産する

*山口線は山陰線に接続した

管轄 備後・安藝

圖解 錦帯橋

・市に起る藝備鐵道は三次を経て山陰線に連絡した



△東南の廣村に支廠計劃中
*保命酒を産し且つ福山を経て北部に鐵道を通ずる

で、縣廳第五師團司令部・高工・高師・高等の三校がある。牛肉罐詰・牡蠣を名産とする。

山陽線は、廣島絲崎(港開)尾道市・松永(地製鹽)・福山市を通じ、吳線を分つ。軍港吳市には、第二海軍鎮守府と、規模東洋一の海軍工廠とがある。蘆田河畔の福山市は、機業の中心で、尾道鞆

帶橋で名高い岩國を過ぎり、大嶺(石炭産地)山口とに支線に分てゐる。

廣島縣(瀬戸内海に面して島嶼が多い。就中江田島は海軍兵學校、嚴島(通稱)は嚴島神社(日本三)の所在地として名高い。廣島市は大田川の三角洲に跨り、廣島灣頭にあつて、要塞地帯に屬し、宇品を外港とする。軍事上、交通上の要地、中國の最大都

と共に、疊表を集散する。

管轄 美作・備前・備中
*西部の下津井は無線電局所在地
*兒島半島の宇野に支線を、中國鐵道を津山と高梁附近とに通ずる
・蠟石・耐火煉瓦の産地

管轄 阿波
△吉野川の支流で奇橋多く、葛橋は特に名高い

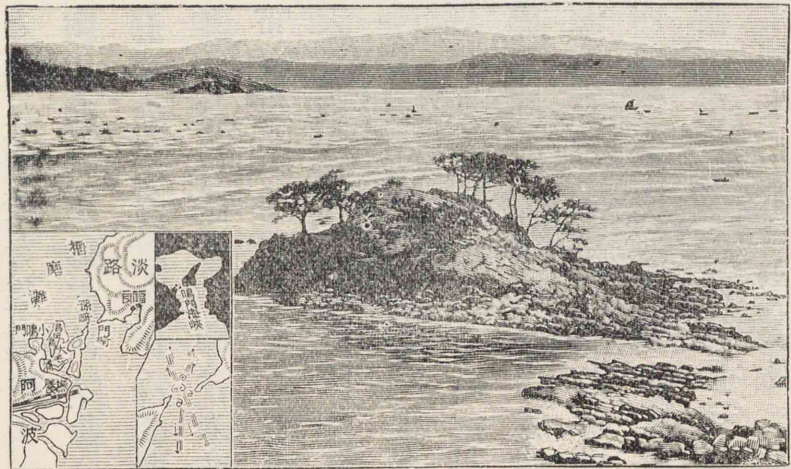
岡山縣(兒島半島は、北に開墾中の兒島灣、南に四國との聯絡港たる宇野を控へて、鹽田が多い。吉井・旭・高梁三川の下流地方には、平野が開け、米・藷・桃を産する。旭川に跨れる岡山市は鐵道の便がよく、縣廳第十七師團司令部・後樂園、六高・醫大二校がある。市以西の倉敷・玉島・笠岡地方は、綿・絲・花筵・眞田(麥稈)の産地である。山陽線は、右の四都と三石とを経て兵庫縣に入る。

德島縣(西南の劔山は、四國の最高峯で、那賀川・祖谷川の水源となる。四國三郎といはれる吉野川は、高知縣より來れる四國の最大河で、其の平野の脇町附近は藍(産額全)上流の池田附近は煙草の栽培地である。池田に起る德島線は、川に沿ひて德島に至り、小松島に通じてゐる。紀伊水道方面の德島

管轄 讚岐
*醬油の産と、寒
霞漢の勝地で名高

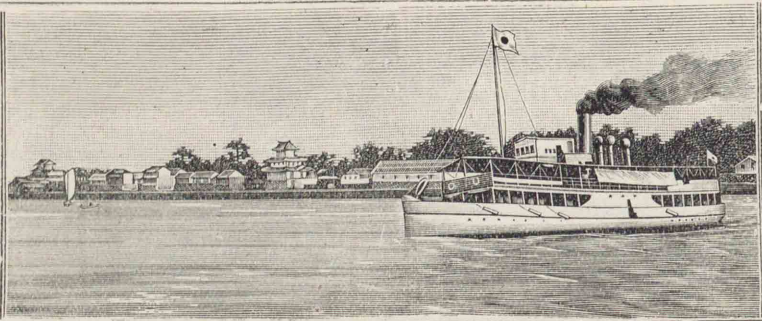
圖解 鳴門海峡

面積小府縣順
位 大阪・香川・東
京・沖繩・神奈川・
佐賀
人口稠密府縣順
位 東京・大阪・神
奈川・香川・愛知
*源平二氏の古戦
場

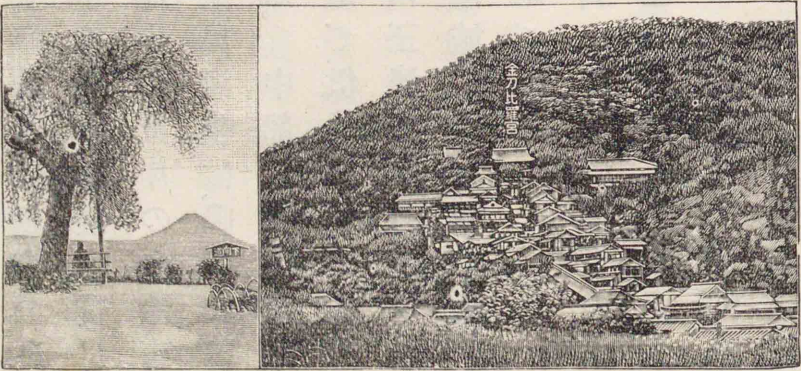


市(縣所在)は、綿織物の産地である。鳴門海峡は、潮流が渦巻くので名高く、附近の撫養は、齋田鹽の産地である。
香川縣讃岐 讚岐半島の地で、小豆島などの屬島に富み、五劍飯野(讚岐)の二名山が、東西に對峙してゐる。面積狭小、人口稠密であるが、土地がよく開けて、砂糖・鹽・麥稈・眞田などを産する。
屋島(島半)に近い高松市は、宇野と共に、四國・山陽を連絡する交通上の要地で、縣廳と栗林公園とがある。

圖解上 高松の
中國四國連絡船
金刀比羅宮あり
圖解下 金刀比
羅宮飯野山
管轄 伊豫



茲に起る讚豫線は、製鹽中心の阪出、丸龜市、多度津の要津を経て愛媛縣に入る。支線は、第十一師團司令部所在の善通寺を経て、象頭山腹の琴平を過ぎ南走する。
愛媛縣24,800縣境に、石槌山が峙ち、細長い佐田岬は、地藏岬(縣大分)と向つて、速明海峡を挟んでゐる。海峡以南の出

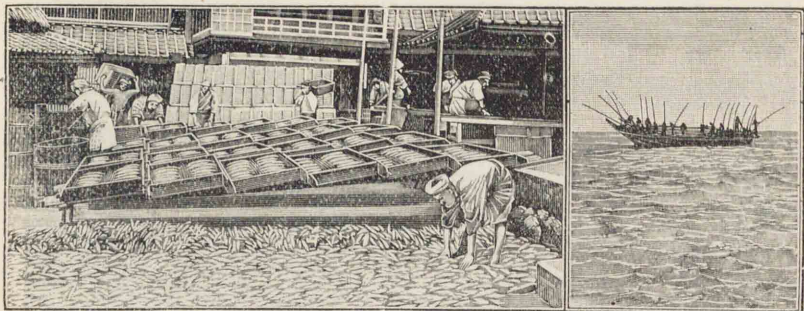


×綿フランネル産地
*附近一帶は鳴門海峡と同じく要塞地帯

圖解 鯉魚船と鯉筒製造

管轄 土佐

・土佐筒の原料



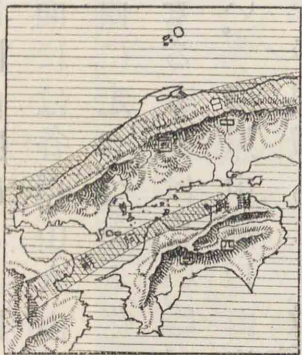
入多き豊後水道には、八幡濱字和島市の良港がある。東部の別子は銅市、川は安質母尼の産地である。高繩半島東岸の今治市附近は、製鹽が盛んで、來島海峡は、鳴門に次で潮流の急な處である。中部の松山市は、縣廳、高等學校のある處で、伊豫緋を出し、伊豫鐵道によつて、外港の三津濱、高濱、道後温泉を連絡する。肱川流域には、和紙、木蠟を産し、大洲は、其の集散地である。
高知縣 オハラ 愛媛縣と相背いて、一望萬里の太平洋に面する。室戸足摺二岬に挟まる、土佐灣は、鯨、鯉の漁獲が多く、西南海上の沖島附近は、紅珊瑚の産地である。本縣は、一般

に森林が多く、殊に楮、三椏の栽培が盛で、和紙の産額は、全國第一である。浦戸灣頭の**高知市**は、縣廳のある處で、木材、土佐節の取引が多く、仁淀河畔の伊野は、製紙の中心である。

第二節 概説

地域 中國地方は、本州最西部の半島地域で、北は日本海に臨み、西南は九州に對つてゐる。之と瀬戸内海を挾んで、南北

圖解 中國地方四國地方の地勢



相對する四國地方は、瀬戸内海の南を限つて、東は紀伊水道、西は豊後水道によつて、紀伊半島、九州と相離れ、南は太平洋に面してゐる。

地勢 中國、四國兩地方とも、幅が狭い上に、前者は丘陵性の中國山脈、後者は

* 中海・尖道湖は
風光良し

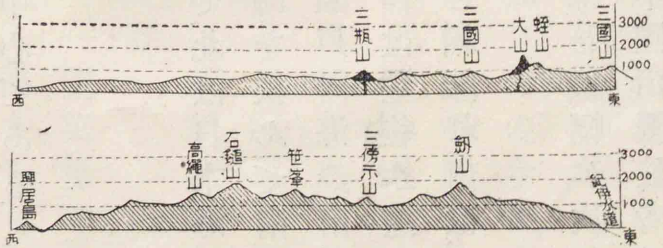
圖解 中國山脈
と四國山脈

* 十州鹽田

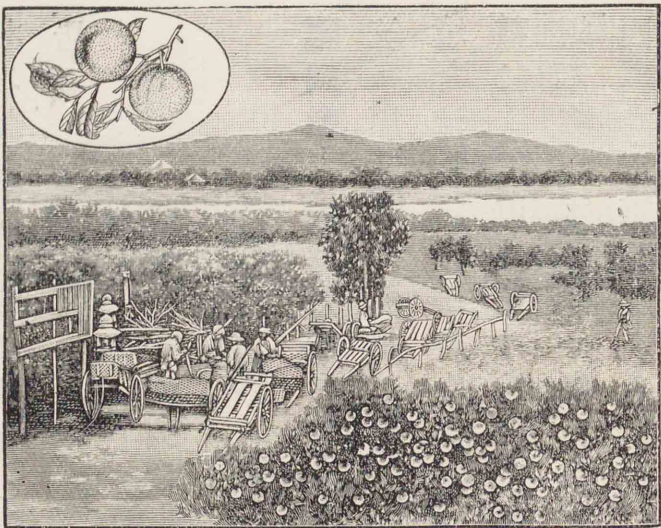
四國山脈により、南北兩面に分れて、其の北面には各、白山火山脈と阿蘇火山脈とが、東西に走つてゐる。従つて、平野や河湖の大きなものはない。唯、江川と吉野川とが著しい。海岸中、瀬戸内海面のみは、屈曲・島嶼に富み、風景もよく、殊に晴天がよく續いて、製鹽*が盛で、海運もよく發達してゐる。

氣候 日本海方面は、冬に雨雪多く、瀬戸内海は溫和少雨で、太平洋方面は、高温多雨である。

産業 米・麥・果實などの農産多く、中國は、一般に牧牛が盛で、愛媛縣は銅・安質母尼を産する。水産業も盛大で、瀬戸内海の鯛・製鹽、日本海の鰯、太平洋の鯨・鯨など



圖解 夏橙の收獲



るのみである。海運は、日本海面は良港灣に乏しく、殊に冬季は風浪荒く、航海不便であるが、瀬戸内海は、頗る發達して

殊に名高い。工業は、岡山・廣島二縣に榮えて、花筵・疊表・麥稈・眞田・綿糸などを主とする。

交通 鐵道山陽線は、中國地方の幹線で、汽船によつて四國・九州・朝鮮の鐵道と連絡する。山陰方面に、山陰線があるが、まだ完通せず。其の他中國鐵道などもあるが、南北の連絡は、完全でない。四國地方には、徳島・讚岐の諸線があるが、一部の交通を助け

る。
都邑 瀬戸内海に沿へる地方は、産業が盛で、人口も稠密であるから、岡山・広島・呉などをはじめ、中都邑がよく發達して居る。

第六章 九州地方

面積 六萬方里

隣境 日本海、瀨戸内海、朝鮮海峽、太平洋、東支那海

人口 八七三萬人

第一節 處誌

福岡縣

玄海灘・周防灘有明海に面し、平野が散在してゐる。

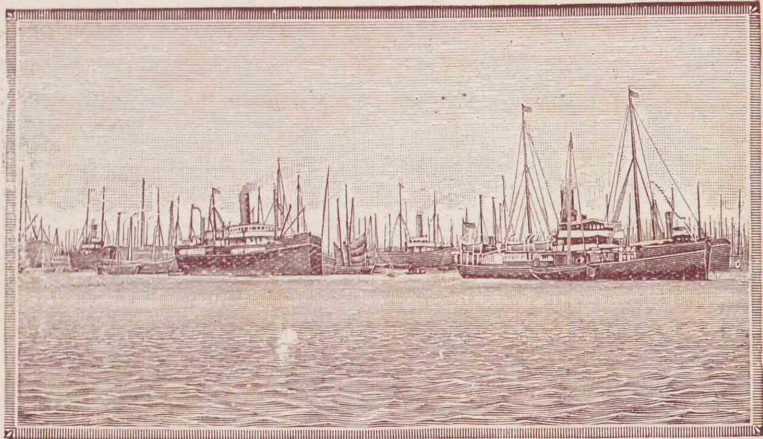
筑後川(筑紫)

は、九州の最大河で、大分縣から來て、佐賀縣との境を流れ、筑紫平野を開いて有明海に注ぐ。其の平野の米菜

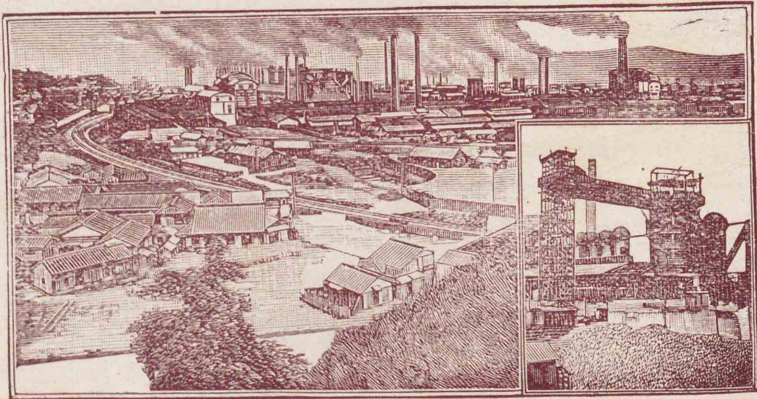
種は、遠賀川上流の筑豊炭田及び三池の石炭と共に、産額が頗る多い。本縣は、一般に農工商が發達して人口が多く、七市・四開港・二軍都がある。

管轄 筑前・筑後・豊前・牛部

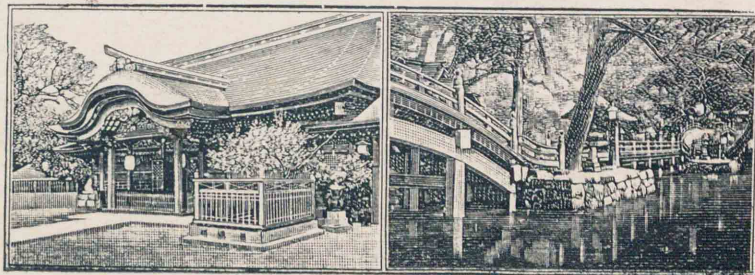
* 下流地方には榿を植ゑて木蠟を出す



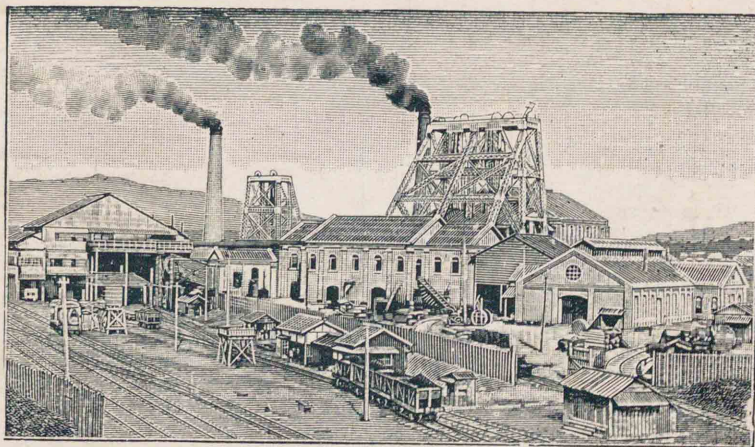
若松港



八幡製鐵所の壯觀と塔鐵爐



太宰府神社



三池の炭坑

× 附近は阪神地方の如く九州北部の工業地帯である

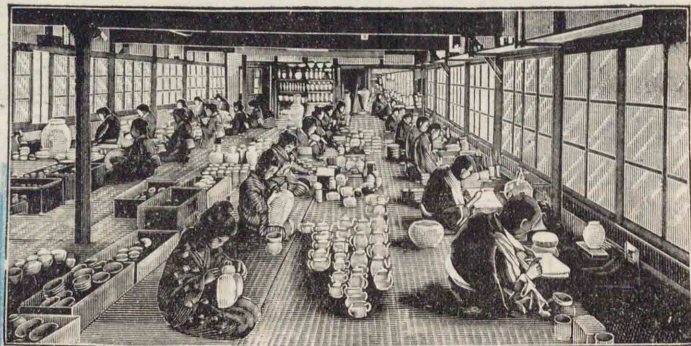
* 東に太宰府址・太宰府神社、東に香椎宮・箱崎八幡宮、西に千代松原

・東北の太刀洗は陸軍の航空隊の所在地

帝國第四の開港の門司市は、下關に貨物積載船を通じ、内外航路の要地で、石炭の輸出が多い。小倉市は、第十二師團司令部の所在地、日豊線・鹿兒島二線の會點、小倉織の原産地である。洞海入口の開港若松市は、對岸に八幡製鐵所を控へて、鐵鑛の輸入が多く、又遠賀川の上流の炭田地方に、筑豊線を通じて石炭を輸入する。博多灣は、海中道で荒浪を避ける。灣頭の福岡(港)は、博多福岡を市の要部とし、縣廳大學・高等學校がある。博多織を産し、附近に名勝・史蹟が多い。門司に起る鹿兒島線は、豊州・筑豊二線を分つて、福岡・鳥栖(佐賀)・久留米・大牟田を通ずる。筑後川下流の久留米市は、第十八師團司令部の所在地、久留米緋の産地で、三池炭坑を控ふる。大牟田市は、開港三池を控へ、石炭綿糸の市場である。

管轄 肥前東部

圖解 有田燒工場



×開港古く、水深の深い良港であるが割合に振はぬのは土地が餘在してゐるからである

管轄 肥前西部、壹岐・對馬

口附近の佐世保市は、第三海軍鎮守府のある處で、彼杵半島南部の開港長崎市は、内外の航路に當り、縣廳控訴院長崎造

佐賀縣 有明海方面は、筑紫平野の一部

で、開港の住江がある。北部の筑紫山脈に石炭、平野に米、海に牡蠣を産する。

唐津、伊萬里、二灣間の東松浦半島は、史蹟名古屋のある處で、西方の鷹島(縣長崎)は、弘

安役に名高い。鐵道長崎線は、鹿兒島線上の鳥栖に起りて、縣廳高等學校のある

佐賀市、温泉地の武雄、製陶地の有田を經、途中で唐津、伊萬里の二線を分ける。

長崎縣 本縣の大部は、島嶼と半島とで、海岸線が長く、漁業が盛である。大村灣

船所、醫大、高商二校の所在地で、海産物の輸出が多く、沖合に高島等の炭坑がある。

長崎線は、佐世保市と島原鐵道とを分ちて長崎に終る。島原半島には、

中央に温泉岳、南岸に開港の口、津がある。五島は、五島鰯を産して、平戸

島と共に、捕鯨が盛である。壹岐對馬は、日本海の西門に横たはつて、朝

鮮に渡る飛石の如く、對馬海峽(東水)東方の沖島(縣福岡)近海は、日本海々戰の始まりし地として名高い。對馬は、鰯の産が多く、開港嚴原、鹿見、佐須奈と、竹敷要港とがある。

熊本縣 東南部は、土地が高峻で、就中、阿蘇火山地方は、粟作



圖解 長崎港の石炭積込み

×西端の大瀬岬は無線電信局所在地

管轄 肥後

後式丸山
世思才

外輪山
谷原
奥谷原
谷瀬

板子岳
高岳
中岳
島嶺子岳
杵島岳

×一名成趣園

*五高・高工・醫
大・藥專

圖解 阿蘇火山
と水前寺

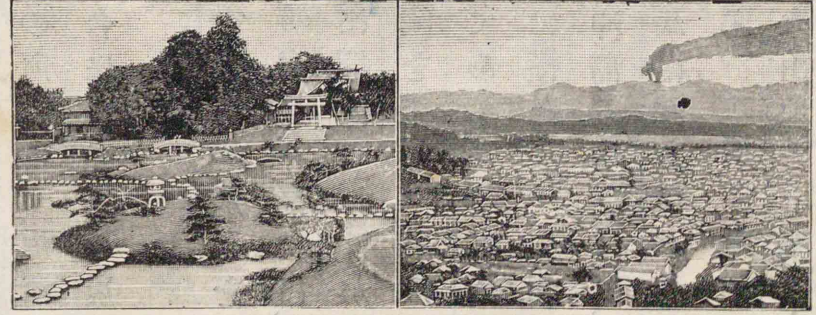


・三急流 (球磨川
最上川
富土川)

大分 (大分県)

地方誌 九州地方(處誌)

牧馬が盛である。阿蘇山に發源する白川は下流に肥後米を産する肥後平野を開き、熊本を経て有明海に注ぐ。熊本市は縣廳高等諸學校のある處で、北方の植木・田原坂と共に、西南役で名高い。熊本には、第六師團司令部が置かれてある。市の近郊に、九州一の名園水前寺がある。南方の宇土半島は、開港三角を控へて、無煙炭・陶土を産し、天草島と共に、八代海(不知)を抱いてゐる。鹿兒島線は熊本の南で三角線を分ち、セメント・木材市場の八代から球磨川の急流に沿ひ、人吉南方のループ線を経て、鹿兒島縣に入る。



六

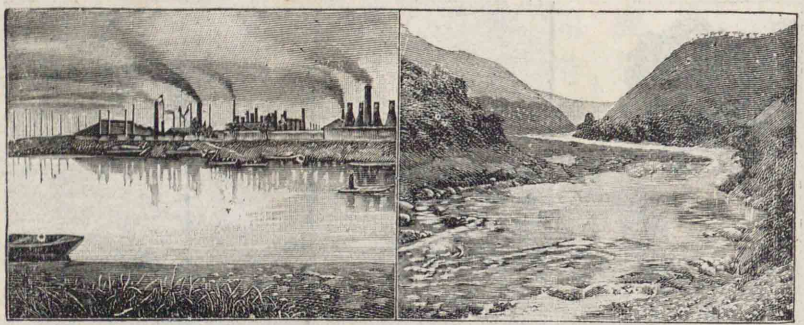
管轄 豊前半部
豊後

×疊表に備後表七島表の二種ある前者は蘆草細く坐敷用と、後者は太くて體裁感しきも堅牢である

圖解 球磨川の急流と八代のセメント工場

*日出・大分・白杵は樹の集散地

管轄 日向



大分縣 大部は、九重山・由布岳・鶴見岳などの山地で、山國川の上流には、奇岩清流の耶馬溪・河口には綿紡績地の中津がある。其の東南の宇佐に、名高い八幡宮がある。坊主頭形の國東半島は、七島表を産し、佐賀關半島と、別府灣を抱く。灣岸の温泉別府と、縣廳高等商業學校所在地の大分市がある。日豊線は、中津・宇佐・日出・別府・大分を経て、豊後水道岸の白杵・佐伯の漁港を過ぎて居る。宮崎縣 我が建國の靈地として、當時の史蹟がある。面積が廣くて、裏九州の大部を占め、人口が少なく、未墾地が多い。祖

未墾地
御原野
木材薪

山竹
シイタケ

地方誌 九州地方(處誌)

五

×木材・薪炭・椎茸・竹林等
*鮑・鯉の水産が多い

圖解 櫻島と鹿兒島と櫻島大根の大きさ

管轄 大隅・薩摩



母山市房山・霧島火山などの山地が多いので、林産に富めど、陸の交通が不便な上に、海岸に出入が少なく、日向灘には、細島・油津の小港があるのみである。延岡は、五箇瀬川口の名邑で、上流には、銅産地(日平)がある。宮崎線は、鹿兒島線上の吉松に起つて、大雄川下流の名邑都城と、河口の宮崎(縣廳所在)とを過ぎつて居る。

鹿兒島縣 薩摩・大隅の二大平島が、鹿兒島灣を抱き、灣内の櫻島は、大根を産し、大正三年の噴火で半島となつた。西南には、薩南諸島が連つて居る。河

×牛尾・山ヶ野・大口等

*西郷隆盛最後の地
●本縣は錫の産額全國一で、谷山は其の主生地である

△名瀬は雨量の多きこと本邦等一

管轄 琉球
×住民の主食物

支那の風習の如く墳墓を壯大にする

泡盛
精製
星

流は、川内川のみが有名で、平野が少ないが、甘蔗・砂糖・煙草・薩摩節・山金を産し、牧馬も盛である。鹿兒島線は、葉煙草産地の國分・加治木を経て鹿兒島に終る。開港鹿兒島市は、後に、城山を負ひ、前に櫻島を望み、島津公の舊城地で、薩摩・燒薩摩・燒錫器を名産とし、縣廳第七高等學校造士館・高等農林學校がある。薩南諸島の種子島(鐵砲初傳の地)は、甘蔗屋久島は、杉・鯉節、大島は大島紬・黒砂糖を産する。沖繩縣・薩南諸島に連なれる五十有餘の島嶼で、臺灣に渡る飛石に似てゐる。高温多雨で、甘蔗・甘藷・芭蕉などの熱帯性植物がよく生育し、養豚が盛である。夏秋の候には、暴風が屢襲來するので、家を低くし、石垣を高くする。今は、内地との交通が開け、教育が日に進み、言語・風俗など、殆ど内地と異ならない。

厚卷形式
精製
星

地方誌 九州地方(處誌)

つとぶ(る)

高嶺、常

最大島沖繩の開港那覇市(縣廳所在)は琉球絣芭蕉布舊王都の首里市は泡盛を産する。先島諸島の時刻は臺灣と共に内地より一時間後れる。南東海上のラサ島(沖大東島)は燐礦を産し、無線電信局がある。

第二節 概説

地域

本地方は行政上八縣十二國に分れ、東は下關、速明の

兩海峽によつて本州と四國とに向ひ、北は朝鮮海峽によつて朝鮮に對し、西南には薩南、琉球の二列島が太平洋と東支那海とを限つて、臺灣との連鎖をなしてゐる。

地勢 丘陵性の九州北部山脈と、



圖解 九州地方の地勢

八縣・十二國？

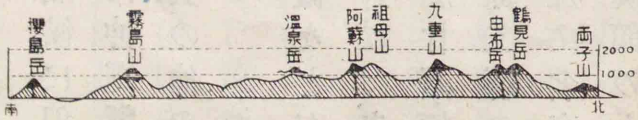
海嶺、石灰、石炭、土石

圖解 九州南部山脈

*約十八尺

高峻な九州南本山脈との間には、阿蘇火山脈が東西に斜走して、本地方を南北に分ち、別に霧島火山脈は霧島山から西南に延びつゝ、櫻島、開聞岳を起して、遠く薩南諸島に連つてゐる。

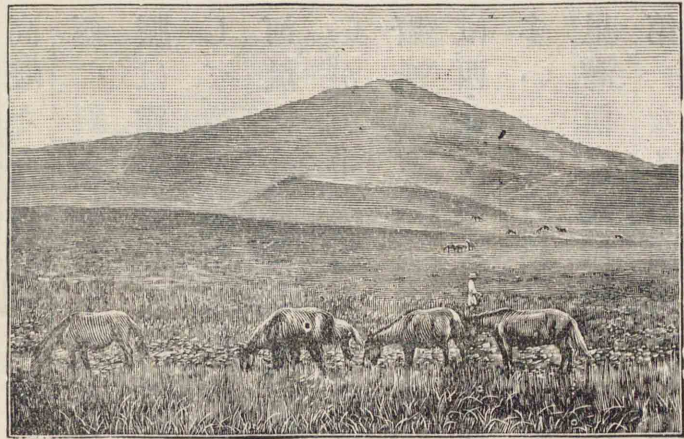
河流には、筑後、球磨、川内、遠賀など、著名なものが多い。が、就中、筑後川は、其の流域に、本邦屈指の筑紫平野を開き、南方の肥後平野と續いてゐる。海岸線は、西北に最もよく發達して、大半島や屬島が頗る多い。肢節に富める肥前半島は北に唐津灣、伊萬里灣、西に大村灣を入れ、東に潮汐干満の差が、内地第一なる有明海を控へて居る。宇土半島と天草島とは、八代海を抱き、南部の薩摩、大隅二半島は、鹿兒島灣を抱いてゐる。東南なる日向灘の海岸は、概ね平直で、後に高山を



負ひ、人文の發達が、他の三面に比して、大に後れてゐる。東部には、屈曲多き豊後水道があり、其の北に、風光明媚なる別府灣が凹入してゐる。

氣候 北部は、山陰・北陸の氣候に似、南部は、温暖多雨である。殊に沖繩縣は、霜雪を知らぬ程で、芭蕉其の他の熱帶性植物さへある。

産業 西北部は、米・麥・菜種・櫛などが多く、特に筑紫・肥後の兩平野には、良米を産する。南部には、甘蔗・甘藷・煙草の栽培が盛で、熊本・鹿兒島二縣の牧馬と、沖繩縣の養豚とは殊に名高い。九州北部山脈は、内地産炭額の大



圖解 牧馬（阿蘇火山地方）

× 林産物亦多し

部を出し、九州南部山脈は、金・錫を産する。長崎・鹿兒島の二縣は、帝國有數の水産地方で、鯉・鱈・烏賊・鯨などの漁獲が多い。工業は、石炭に富める西北部地方に盛大で、製鐵造船・紡績・製糖などの大工業が行はれてゐる。開港場は、殆ど西北部にあつて、門司・長崎は對外貿易、福岡は内地商業の一中心をなしてゐる。

交通 交通も、西北の半面に最もよく發達してゐる。海運は、門司・長崎を二大中心として、内外の諸港に通じ、鐵道は、鹿兒島線が南北に縦貫して、長崎・日豊・川内の諸線を分岐し、更に筑豊炭田地方には、筑豊線などが、蛛網狀をなしてゐる。**都邑** 長崎は、九州中、最初に開けた最大都であるが、新進有望の都市なる福岡・門司に比しては、發達上遜色がある。

第七章

臺灣地方

面積 三三三 方里
隣境 太平洋 東支那海 臺灣海峡 パシフィック海峽
人口 三六〇 萬人

福建省

臺灣山脈

新竹山

シルビヤ山

台東山脈

基隆山脈

360
2332

圖解 臺灣島の地勢

× 臺東山脈と蕃界嶺とを合すれば山

圖解 臺灣地方南北縦断

地は本島の約三分二の地積を占めて居る



地域 帝國の西南端にあつて、南半は熱帯に入り、支那や米領の比律賓群島に近い。行政上臺北新竹

臺中・臺南・高雄の五州と、臺東

花蓮港の二廳とに分れる。

地勢 帝國中、最も雄大なる

臺灣山脈が、東部に偏って縦

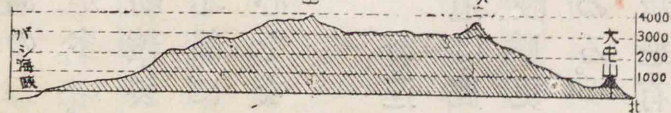
走し、脈中の新高山は帝國の

最高山で、シルビヤ山等も、亦富士山より高い。山脈

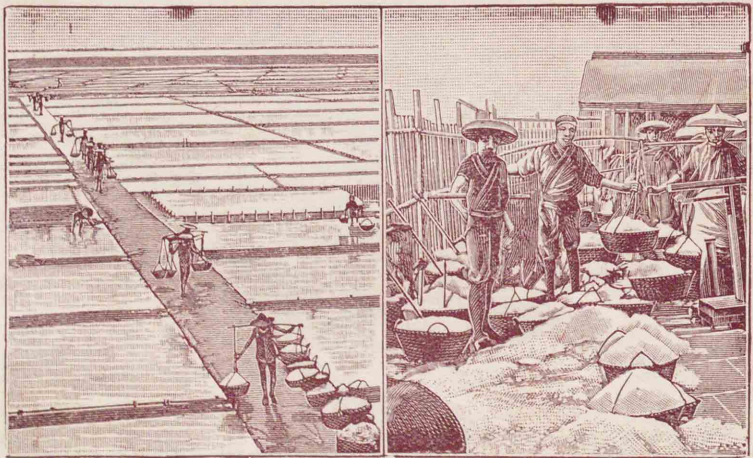
の兩側には、廣い臺灣平野がある。淡水河濁水溪下

淡水溪等が流れて居るが、水運の便は少ない。海

岸は、出入が少なく、東岸には、數千尺の斷崖が多く、



所製粗腦樟と林樟

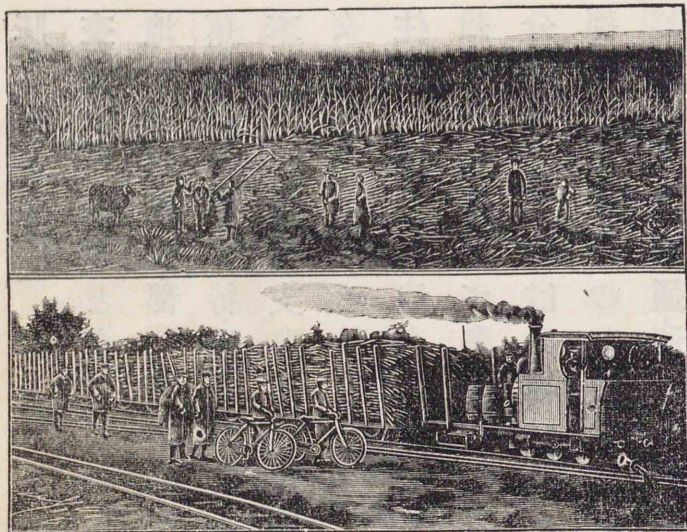


鹽製日天

Handwritten notes in Japanese, including '臺灣山脈', '新高山', 'シルビヤ山', and '台東山脈'. There are also some numbers and other characters.

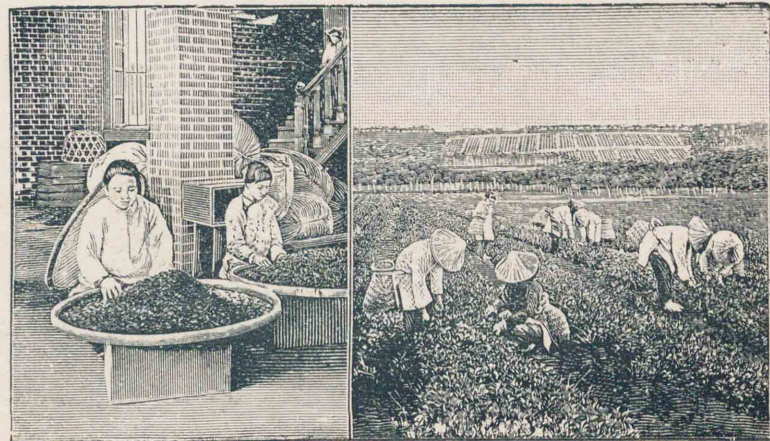
三
戎ジャ
克

圖解 甘蔗畑と
甘蔗運搬列車

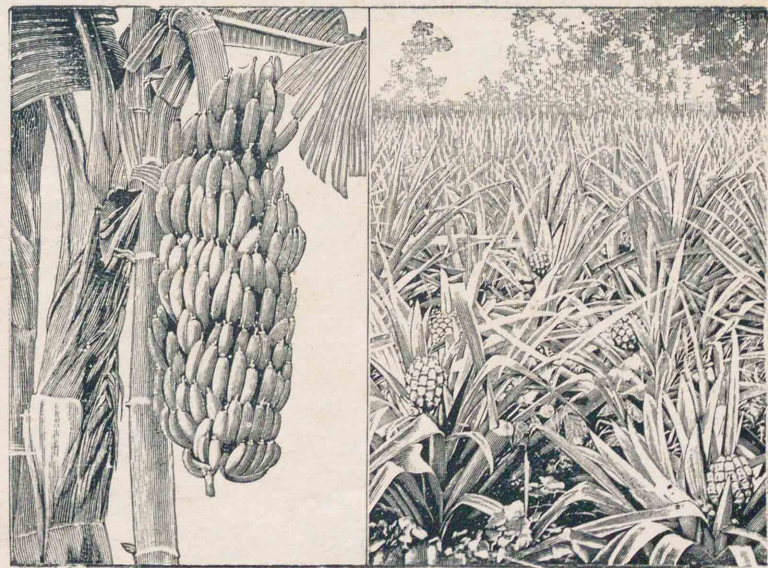


西岸には、遠淺の沙濱が多い。屬島は臺灣海峽の澎湖群島の
みが著しい。

氣候 高温多雨で竹、檳榔、樹、榕、樹、芭蕉等が生育し、暴風雨が屢襲來する。
産業 北部の丘地は茶、中部は米、南部は砂糖の産が多い。樟腦は、中高地の樟樹より製し、茶と共に、多く海外に出だす。各地の林投樹リトウジュ(タロノキ)の葉は、琉球の産の如く、夏帽子に作られる。其の他阿里山等の檜、西岸の鹽、北部の金石炭は、著しい産物である。家畜は、

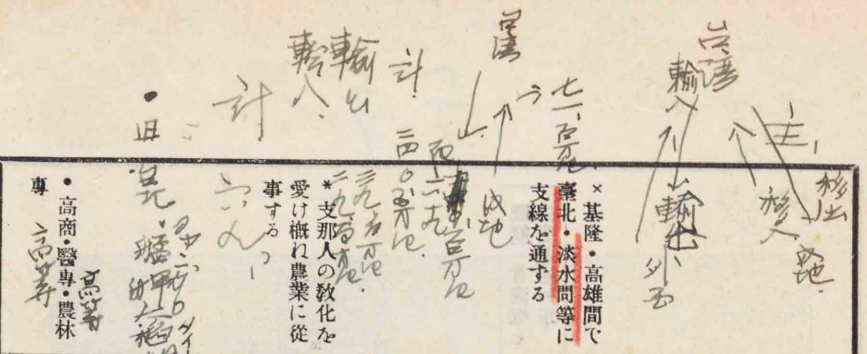


茶製とみ摘茶

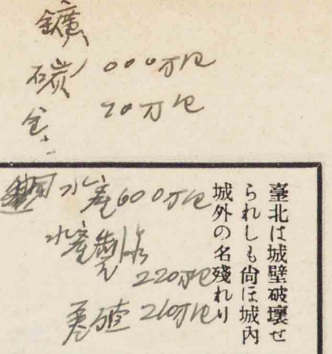


バナナと梨瓜

バナナ
梨瓜



豚・水牛が多い。
交通 日本領となつてから、著しく交通が発達し、鐵道は、平地の稀なる東部にさへ漸次延長し、西部の縦貫線、南部の甘蔗運搬鐵道は特に著はれる。汽船は、本島諸港間を始め、内地、本島間、本島・南支那間を連絡して居る。轎竹筏は、臺灣の特殊交通機關である。
住民 蕃人、内地人各十數萬の外は、支那人の系統に屬し、概ね平野に住みて、農商の勢力が大である。蕃人は、生蕃、熟蕃に分れ、其の生蕃は、山地に據りて兇暴を逞しうした者である。
都邑 東北岸の基隆は、築港殆ど大成して船舶の出入が多し、内地との交通、商業の要門で、貿易も盛である。附近に、金瓜石、石炭を産する。淡水河畔の最大都臺北市は、總督府、高等法院、諸學校第一守備隊司令部がある。城外の大稻埕は、製茶



臺北は城壁破壊せられしも尙ほ城内城外の名残あり
 × 渡島・後志・石狩
 天鹽・北見・釧路
 日高・十勝・釧路
 根室・千島
 * 渡島・檜山・後志
 膽振・石狩・空知
 上川・留萌・宗谷
 網走・根室・釧路
 河西・浦河

が榮え、臺灣神社に程近い。淡水河口に、淡水がある。臺中市彰化は、米産地方の中心である。嘉義は、製材、製糖が盛で、舊都の臺南市は、第二守備隊司令部、商業専門學校の所在地である。鳳山、屏東(阿)は、製糖が盛である。高雄(打)は、基隆と南北の二門の狀で、前途が有望である。恒春は、帝國最南の都邑で、澎湖群島の海軍要港の馬公は、帝國南門の鎮である。

第八章 北海道地方

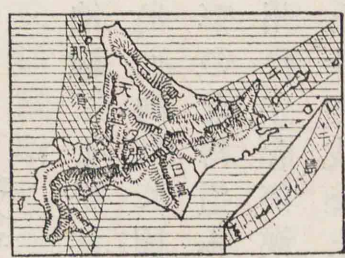
面積 五九六千平方里
 隣境 オホーツク海 千島海峡 太平洋 津軽海峡
 日本海 宗谷海峡
 人口 二〇九萬人

地域 太平洋・オホーツク海間の千島諸島は、露領勘察加半島に向ひて、國後、擇捉、得撫の島々が、魚列の如くに連り、赤鯮形の北海道本島は、帝國第二の大島で、津軽海峡を隔て、本州に、宗谷海峡を隔て、樺太に對する。中に、六市(函館、小樽、札幌、旭川、室蘭、釧路)と十四支廳とがある。

圖解上 北海道の地勢

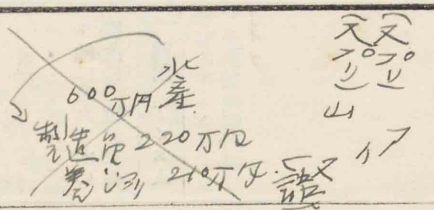
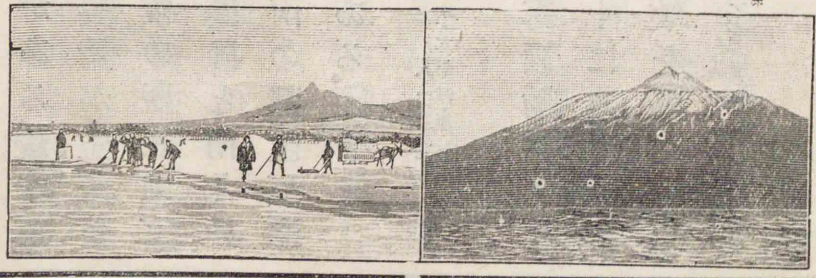
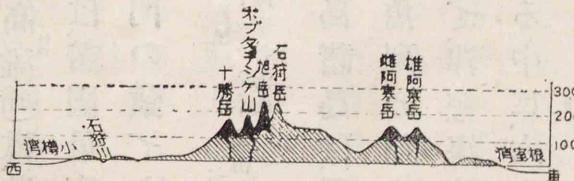
圖解中 北海道地方東西横断

圖解下 北海道の火山(擇捉島の爺岳)と駒岳と大沼の採水



地勢 縦走する北見日高二山脈と横走する千島火山脈とは、本島の中央部で相交り、そこに旭岳石狩岳等が峙つ

て居る。石狩天鹽十勝釧路の四大川も、此の附近に發して、各平野を開き、以て植民の來るを待つて居る。就中石狩川は、帝國屈指の長流で、廣大なる石狩平野は、能く開拓せられて居る。西南部の内浦灣附近には、樽前マッカリ等の火山が多い。海岸は、出入が少く、宗谷襟裳二岬は赤



鱒の兩鱗をなし、尾部(半島)に、内浦函館の二灣がある。氣候 寒氣が稍強く、羽越地方よりも雨雪が少ない、中部は寒暑の差が多く、西北岸は、東南岸に比して、割合に温和多雨である。

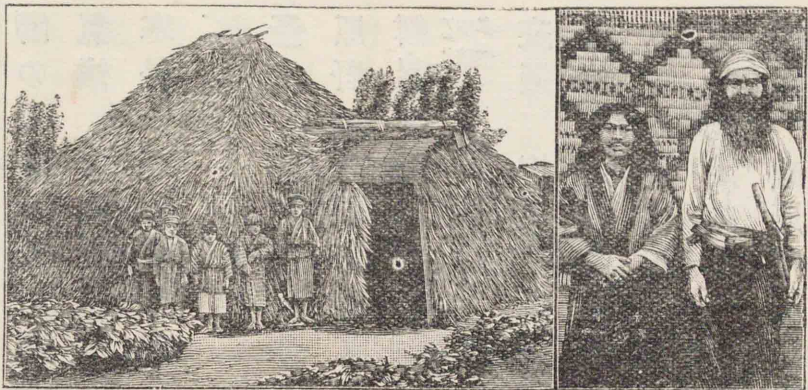
産業 麥・豆・玉蜀黍・馬鈴薯・菜種・林檎の産が多く、日高石狩の原野は、牧馬が盛である。山地の蝦夷松・椴松・石炭・硫黄は、鮮・鮭・鱒・昆布等の海産物と共に、其の産が多く、今や製粉・製紙・釀造(麥酒精)・製麻等の工業が盛である。

交通 海運は、稍發達したれど、濃霧(主に夏季)・流水(主に春季)の妨あり。函館に起る函館線は、旭川に達して、宗谷線と接続し、中途岩見澤で室蘭線・瀧川で根室線・深川で留萌線と接続し、又根室線は網走線と、旭川に至る支線とを分岐する。住民 政府は、開拓の根本として、内地人の移住を奨励し、今

× 楡に似たる木の樹皮にて織りし者

アイヌ人

* 大沼等にても作らる



や人口は二百萬を起えた。而してアイヌ(蝦夷)は、二萬に満たない。
アイヌは、蝦夷の子孫で、日高國沙流川附近に多い。骨格が逞しいが、性質は溫和である。男子は、多くの頭髮鬚髯を蓄へ、有夫の女子は、口邊に鯨す。衣服は、アツシで作られ、筒袖で裾が短く、概ね脚絆を穿ち、熊を射、鮭鱒等の魚類を捕へ、粟稗等を作りて、わびしき小屋に隣むべき月日を送つて居る。

都邑 函館灣内の開港函館市は、水産物の輸出が多く、青森と汽船を通ずる。要塞があつて、大湊と共に、津輕海峽の鎮である。明治維新史に名高い五稜廓の外濠では、函館氷が作られる。

倶知安
余市

× 北海道炭礦汽船會社のアームストロング會社等との合同事業
石見沢
大沼等にても作らる

開港小樽市は、石狩平野の門戸で、木材輸出などの商業が振ひ、高等商業學校がある。石狩平野西部の札幌市は、北海道廳・北海道大學、麥酒麻布等の工場がある。石狩平野の東方山地には、多張幌内等の炭坑が多く、内浦灣岸の開港室蘭市は、多くそれを輸出し、日本製鋼所の所在地である。
旭川市に、第七師團司令部がある。宗谷海峽附近の稚内は、鮮枝幸は沙金を産する。根室と釧路川口の釧路市とは、共に開港である。

第九章 樺太地方

面積 三〇九方里 人口 九萬人
隣境 露領 オホーツク 海 宗谷海峽 間宮海峽

地域 北海道本島の北にあつて南北に長く、北緯五十度線で露西亞領と境し、西は露西亞領の西比利亞に對して居る。
地勢 低夷なる東樺太西樺太の二山脈が縦走し、本地方の

圖解 樺太の地勢

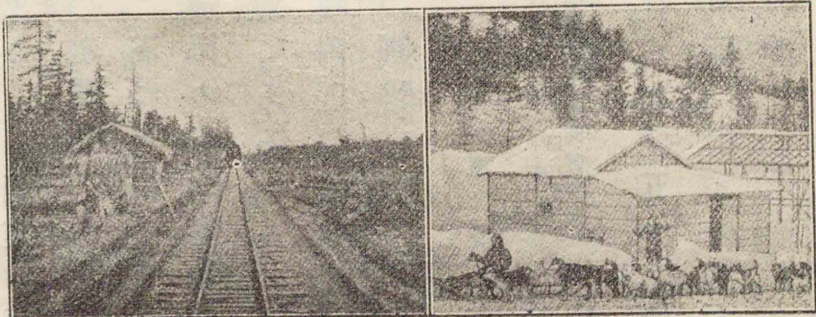


最大河たる幌内川が露領より來つて、

右の二山脈間に幌内平野を開いて居る。海岸は屈曲が少ない。中知床・西能登呂二岬間に亞庭灣・北知床岬の西に多來加灣がある。

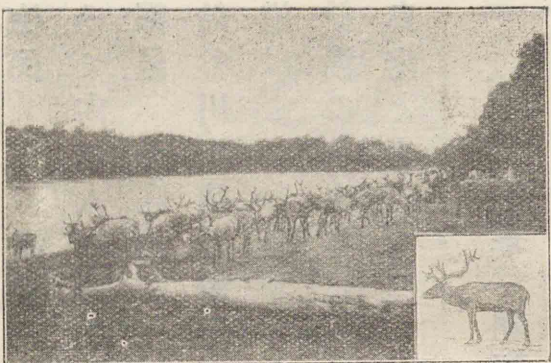
圖解 犬橇と樺太の一鐵道

氣候 冬季は長くて寒氣が強い。港灣が概ね氷結し、海底電信によりて、漸く内地と音信する。但し雨雪の量は少ない。
産業 氣候の關係上、農産は少ないが、蝦夷松・椴松・落葉松の密林がある。鮮・鮭・鱒・昆



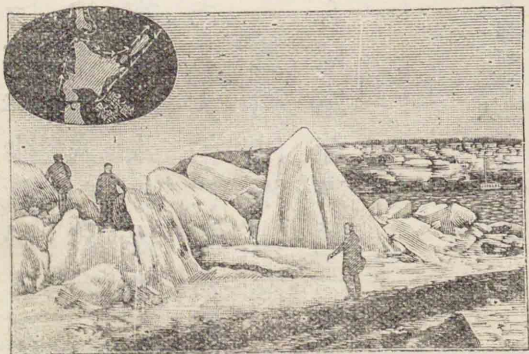
多來加灣内の海豹島に鰐鰓・鰐・鰐宮海峽の海馬島に海驢が群棲する

圖解上 馴鹿
圖解下 流水



布・海獸(鰐鰓等)等の水産は無盡藏と云ふべきで、漁期には、内地の漁民が多く出漁する。鑛産は石炭・石油が有望である。

交通 道路鐵道は、漸次發達し、土人は、犬橇・馴鹿橇を使用する。内地との航路が開けたれど、近海は、冬季に氷結し、春季に流水の漂ふ缺點がある。土人は馴鹿橇を使用する。



沿革 樺太は、日露二國の共屬地たりしが、我が國は、明治八年に千島全部を領有して、本島全部の露領たることを承認

したが、明治三十八年に、本島南部を領し、今は、北部にも、勢力を及ぼして居る。

住民 今や露國人は退去し、土人も、アイヌ等が少數居るのみで、内地人が漸次多く移住し、殊に夏季に出漁人が多い。

都邑 亞庭灣頭の開港大泊は、内地より本島に入る要地で、鈴谷川上流の豊原は、樺太廳の所在地である。大泊に起る鐵道は、ここを過ぎて多來加灣岸に達する。眞岡は、不凍港で、鮮魚の中心である。本斗は、將來築港成らば、本地方唯一の良港とならう。

第十章 朝鮮地方

面積一、四三二方里

隣境露領西比利亞日本海朝鮮海峽黃海滿洲

人口一、七〇萬人

地境 亞細亞大陸東部の兎形ウサギガタの一大半島で、東より東南にかけては、本州中國九州に向ひ、北は、豆滿江トマン白頭山アトリヨク鴨綠江アトリヨクに

よりて、露領西比利亞又は支那領滿洲と境し、面積は、本州のそれに近い。

地勢 南部は、金剛山の峙てる大白山脈が、東海岸を走り、日本海に向ひて急



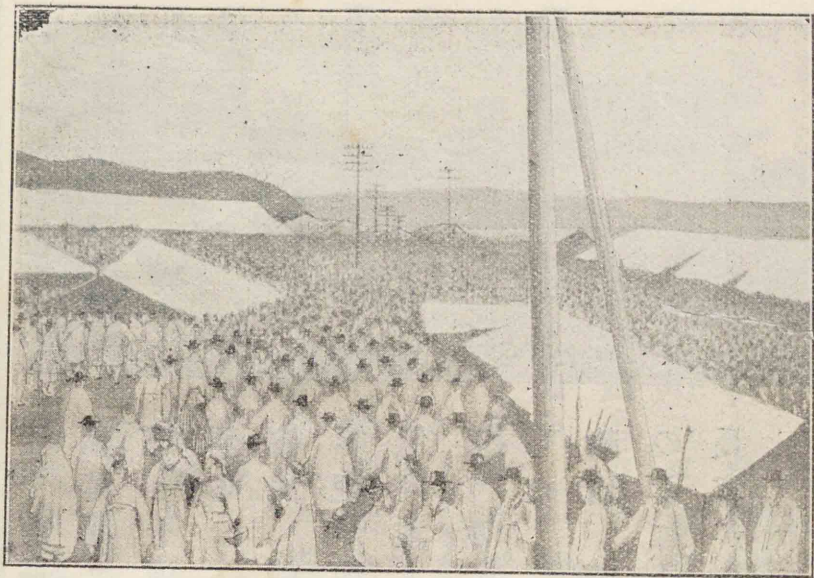
斜シヤするから
河流は、概ね
山脈の西側
を流れ漢江
錦江・榮山江



は西流し、洛東江は南流して居る。北部は、大同江域には平野があるが、東北より西南に向へる數條の山脈があつて、概ね土地が高峻で、就中、長白山脈中の白頭火山は、本地方の最高峰である。之に發

圖解上 朝鮮の地勢 圖解下 金剛山

× 鎮守府は佐世保
のそのの兼轄
市 圖解 大邸の大



本浦大邸釜山馬山平壤に府尹數多
鎮南浦義州元山清津の郡に郡守がある。其の郡の
下の面には、面長がある。
都邑 朝鮮海峽岸の開港釜
山は、内地との交通、商業の要
門で、要港鎮海灣岸に、馬山と
海軍要港部所在地の鎮海と
がある。洛東江平野の開市
場大邸は、覆審法院があつて、
春市秋市が盛である。大田
は、米産地方の新市街である。
榮山江口の開港木浦は綿錦
江口の開港群山は米を積出

× 朝鮮大學等あり

す。黃海岸の開港仁川は、京城の咽喉である。漢江岸の京
城は、半島の中央にある最大都開市場で、城壁を繞らし、李王
宮朝鮮總督府第二十師團司令部高等法院覆審法院がある。
開城は、人參産の中心である。大同江岸の開市場平壤は、文祿
日清の兩役に名高く、江口に開港鎮南浦を控へて居る。鴨
綠江口の開港新義州は、鴨綠江上流の木材を集散し、京義鐵
道の終點で、安東縣(滿洲)との間に、回轉開閉式の大鐵橋がある。
元山城津清津雄基は東岸の開港で、永興は要港羅南は第十
九師團司令部の所在地である。

附録

第一章 地文地理

山脈は山地の覆きしもの、山系は二個以上の山脈の總稱

地形 我が國は、數多の山脈と、火山脈とが連りて、巨大なる河川・湖沼・平野がない。海岸は出入島嶼が多くて、文化發展の一因をなして居る。

山脈 列島部には、東北山系・西南山系の諸山脈が互り、兩山系の連接せる本州中部地方は、高峻である。半島部には、南部に大白山脈が縦走し、北部に、數條の山脈が斜走して居る。
東北 (東樺太山脈 西樺太山脈 北見山脈(石狩岳) 日高山脈 奥羽山脈 北上山脈 阿武山脈(隈山脈・筑波山) 出羽山脈(羽黒山) 越後山脈 關東山脈(大山)
西南 (赤石山脈(赤石山) 木曾山脈 飛驒山脈(鎗岳立山) 紀伊山脈(山上岳・大臺原山・吉野山・那智山・高野山) 四國山脈(劔山・象頭山・石鎚山) 九州南部山脈(祖母山・市房山) 臺東山脈 臺灣山脈(新高山・シルビヤ山) 中國山脈(逢阪山・長等山・比叡山) 九州北部山脈

火山 我が國は、世界有數の火山國で、従つて秀麗なる山嶽が多い。今我が著名なる火山脈と火山とを擧げやう。

千島火山脈 千島列島(旭岳) 鳥海火山脈 岩木山・鳥海山・湯殿山・月山
那須火山脈 マッカリ岳・八甲田山・岩手山・盤梯山・那須山・男體山・赤城山・榛名山・淺間山
富士火山脈 砂高山・八岳・富士山・箱根山・天城山・伊豆七島・小笠原諸島
乗鞍火山脈 御岳・乗鞍岳・立山(一部) 白山火山脈 白山・大船山・三瓶山
阿蘇火山脈 九重山・阿蘇山・温泉嶽 霧島火山脈 霧島山・櫻島・開聞岳

温泉 温泉は、概ね火山地方にあつて、單純泉・鑛泉の二種に分れ、鑛泉に、硫黄泉(箱根)・鹽類泉(有馬)・酸性泉(草津)等がある。又熱海・鬼首には、一定時を隔てて、水蒸氣・熱湯を噴騰する間歇温泉がある。

河湖 河湖は、概ね交通灌漑・水力利用の便があつて、都市の成立・發達に適し、河港・湖港を有するものがある。我が國の河川は、概ね短小で急流なる故、交通灌漑の便は少いが、大に

×列島の一部には水の堆積作用によつて成りし處がある
*道後温泉・箱根湯本温泉の如し

著大の湖沼 琵琶湖・震浦・鏡淵湖・濱名湖・猪苗代湖

朝鮮西部の平野は 數個に分る

水力を利用することが出来る。内地の石狩・北上・利根・信濃・木曾・淀・朝鮮の洛東・大同・鴨綠などは、稍交通の便が多い。湖沼に、淡水湖・鹹湖がある。我が國の湖沼は、概ね廣大ならざれど、其の數が多く、且つ大抵は、淡水湖である。

平野 平野の位置が良好で、地味が肥沃なるは、人類の活躍に適して、農業が榮え、次で商工も榮える。我が國の平野は、其の數が多いが、大なるものが少い。石狩・關東・越後・濃尾・大阪・筑紫の諸平野と、臺灣・朝鮮の西部にあるものが、稍大なるのみである。

近海 深淺 我が近海は、太平洋方面が深く、千島列島南方のタスカロウ海床の如きは、八千五百米餘である。黃海・東支那海は、最も淺くて、日本海附近も、三千六百米を超えない。若し我が近海の海底が、二百米隆起したならば、我が列島の

大部は、陸續きとなり、且つ亞細亞大陸に接續して、オホーツク海・日本海等は、鹹港に變ずる。

海流 海流に、暖流・寒流の二種があつて、氣溫・雨量・漁業・交通に影響する。我が近海には、暖流に日本海流・對馬海流・寒流に、千島海流・樺太海流・リマン海流がある。日本海流・黑潮は、太平洋暖流の顯著なるもので、比律賓群島の近海より北進し、來り、關東以南の我が國土の太平洋岸を洗ひて、雨量を増し、鰯・鯉を伴ひ、其の末は、北米の西岸に赴いて居る。對馬海流は、之と琉球の近海で分れ、本州の日本海岸を洗ひて、氣溫・雨量を増し、津經・宗谷・間宮・三海岸に赴いて居る。千島海流（親潮）は、勸察加島半島の近海より、北海道・奥羽の太平洋岸を洗ひて、氣溫・雨量を減少する。オホーツク海の北部に起る寒流は、樺太島の爲に分れて、一は、樺太の東方から、宗谷海峡に

至る樺太海流となり、一は樺太の西方を経て、大陸の東岸を洗ひ、遂に對馬海峽に達するリマン海流となる。

潮汐 潮汐の干満は、地形によりて異り、仁川附近は、其の差が三十餘尺、有明干満は十八尺に達する。海峽に於ては潮汐干満の際、内外兩側の水準面が異りて、潮流を起す處がある。鳴門海峽にては、潮流の速度が、一時間五里餘で大渦を捲いて居る。

氣候 **氣溫** 我が國は、南は熱帶に入り、北は寒帶に近づき、加ふるに地勢、海流等の影響によりて、各地の氣溫が區々たれど、概して寒暑が甚しくない。即ち年平均溫度二十五度、八月平均溫度二十八度に達する地は稀で、寒冷なる樺太にて、も年平均溫度は零度以上で、極寒なる一月の平均溫度が零下二十三度に下る處がない。かく氣溫の酷熱、酷寒ならざる

×臺灣の南部なる小島は二十八度に達するもの如し

は、われ等日本人の幸福である。

風 我が國は、夏季に太平洋より、冬季に亞細亞大陸より、季節風が吹き來る。この季節風交代の時期即ち春と秋とは、屢、旋風の襲來することがある。

雨量 我が國は、温帶中の多雨地の一で、臺灣の東北部、九州、四國、紀伊の南部、本州中部、奥羽二地方の日本海方面の如きは、年雨量三千耗餘に達する。少雨地の北海道、樺太、西部朝鮮にも、一千耗に及ぶ處がある。夏季の季節風の頃は、一般に雨量が多く、太平洋方面は、殊に然りである。冬季の季節風の頃は、一般に雨量が少い。但し本州、北海道の日本海地方は、然らずして、殊に北陸地方は、積雪が深い。我が國の雨は、花時の春雨、初夏の梅雨、盛夏の驟雨、初秋の豪雨が著しい。

生物 **動物** 我が國の動物は、樺太の馴鹿、千島の臘虎、北海

×本州の大部、四國・九州・南部朝鮮に著し

× 林投樹
* 天然林は樺太にあるのみ

道本島の鯨、本州の鮫魚、本州・四國・九州の猿猪、小笠原の海龜、琉球の飯匙倩、臺灣の水牛、朝鮮の虎を特有とする。植物は日本の植物は種類が多い。琉球以南に阿旦榕樹、甘蔗、杣櫛、臺灣の高地、九州・四國・本州に松・杉・檜、朝鮮に朝鮮松が多く、北海道以北には、白楊、椴松、蝦夷松、落葉松の森林が多い。

第二章 人文地理

農業 農業 我が國は、古來農を主業として、今も國民の大半は、之に従事して居る。従つて米・麥・粟・甘藷・豆類・菜種・茶葉・煙草の如き主要農産額が、内地の年産額のみにも、三十億圓を起える。但し綿米・大豆・砂糖等の輸入は、少くない。
牧畜業 牧畜業の發達は、少雨の曠野のあるのが必要である。従つて我が國では振はないが、獸肉・牛乳・羊毛・軍馬の需要

農業物の分布

米	朝鮮・臺灣・新潟・福岡・兵庫・愛知・千葉
麥	朝鮮・茨城・埼玉・栃木・兵庫・千葉
大豆	朝鮮・北海道・茨城
小豆	朝鮮・北海道・新潟
粟	朝鮮・熊本・鹿児島
玉蜀黍	朝鮮・北海道
馬鈴薯	朝鮮・奥羽
甘藷	九州・臺灣
甘蔗	臺灣・沖縄・鹿児島・香川
茶	臺灣・静岡・三重・京都
葉煙草	朝鮮・茨城・栃木・鹿児島・徳島
葡萄	山梨・徳島
綿	朝鮮
麻類	朝鮮・臺灣・栃木・廣島
菜類	北海道・福岡
藍	臺灣・徳島

我が漁獲物は、鯨・鮫・鯛・鰯を主とし、水産製造物は、鹽・肥料等を主とする

畜類分布

牛	朝鮮・廣島・岡山・兵庫・島根
馬	北海道・鹿児島・熊本・岩
豚	臺灣・沖縄

が増加した故、之を發達せしめねばならぬ。
林業 森林は、木材・工藝品原料・薪炭・藥品・果實・茸類・護謨などを供する。我が國は、内地に用材・薪炭其の他の林産額多き上に、臺灣に樟・檜・鴨綠江上流地方に松・樅・樺太に椴松・蝦夷松・落葉松・白楊の美林がある。
水産業 我が國は、四面、殆ど海を繞らし、寒暖二流に洗はれ、北日本の近海は、世界三大漁場の一に當

文明國の標準軌道の幅は四呎八吋

大泊・幌延・落石岬・石狩・釧路・船橋・横須賀・大村・潮岬・平野・下津井・舞鶴・角島・佐世保・大瀬崎・ラサ島・那覇・基隆・高雄・金澤・京城・港門島・小青島

は、概ね國有にして、朝鮮滿洲にあるもの、外は狹軌(大抵三呎)で、關東近畿の二地方と、北部九州とに能く發達して居る。

船舶 汽船は三千隻、三百餘萬噸に達し、日本郵船、大阪商船、國際汽船、東洋汽船、日清汽船等の汽船會社があつて、歐洲孟買、カルカッタ、南洋、濠洲、ビジー、セントサウ、ド、桑港、南米、西岸、南米、東岸、紐育等の大航路がある。帆船は稍大型のものが一萬五千隻(噸)ある。

郵便・電信・電話 郵便電信の制度は頗る發達し、海底電線も、内外各地を聯絡し、又無線電信局を沿岸の要地及び大洋航行の主なる汽船に設置し、互に通信をする。電話は、各都市に行はれ、又長距離のものも、漸次擴張するに至つた。

住民人口 我が國の總人口は七千餘萬、一方里の平均密度は一千七百七十八人である。東京、大阪、神奈川、香川、愛知の諸府縣

東京 一、二〇〇、〇〇〇人
 大阪 一、一〇〇、〇〇〇人
 神奈川 一、〇〇〇、〇〇〇人
 香川 一、〇〇〇、〇〇〇人
 愛知 一、〇〇〇、〇〇〇人

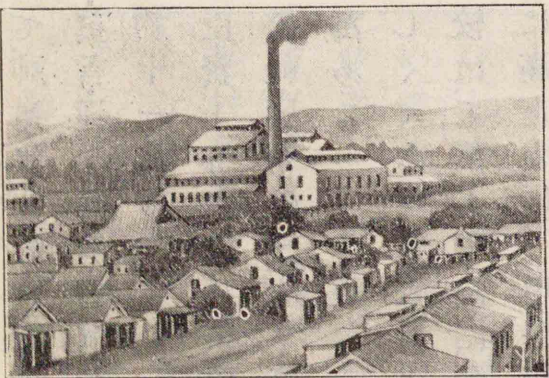
團解 日本の各種族(右より大和族・朝鮮族・漢族・臺灣蕃族・アイヌ族・ギリヤーク族・オロッコ族)



は、最も稠密で、岩手、宮崎、青森、秋田、福島、の諸縣、樺太、北海道、東部臺灣は之に反する。

種族 我が國民は、日本(大和族)が約八割を占めて、他の種族を同化しつゝある。朝鮮に朝鮮族、臺灣に漢族、臺灣蕃族が多く、北海道樺太に少數のアイヌ族住み、尙ほ少數のギリヤーク、オロッコの二族が樺太にゐる。臺灣蕃族は馬來人種、アイヌ族は歐羅巴人種に屬するもの、如く、其の他は、亞細亞人種に屬する。

宗教 我が國には、神道、佛教。



基督教が行れる。神道は、多神教の一で神道、クロミ黒住教、修成派、大社教等の十餘派がある。佛教は、天台、眞言、浄土、臨濟、曹洞、黄檗、眞日蓮等の十餘派に分れ、寺院数が約十一萬ある。

神社 神社は我が皇祖、皇宗を始め、忠臣、賢士等の靈を祭祀し、大神宮を始め、官幣社(大社中社)、別格官幣社、國幣社(大社中社)、府縣社、郷社、村社等に分れ、其の數約十三萬ある。

教育 我が國は、教育の普及發達が著しくて、今や支那等よりの留學生をも見るに至つた。小學校は二萬五千校に餘り、學齡兒童の不就學者は實に百分二に満たない。中學校の生徒數は十六萬、高等女學校のそれは約九萬ある。高等教育には、文部省管轄の諸學校急増し、公立、私立に係るものもある。又各地方に、師範學校がある。陸軍に陸軍大學校、陸軍士官學校(東京)、海軍に海軍大學校(東京)、海軍兵學校(江田)、海軍機

東京工業大學以下の大學に豫定

文部省直轄重要學校

大 學 東京、京都、福岡、仙臺、札幌
別に東京商科大學、東京工業大學、東京文理大學、大阪工業大學、神戸商業大學、廣島文理大學、高等學校、東京仙臺、京都、金澤、熊本、岡山、鹿兒島、名古屋、新潟、新潟、松本、山口、松山、水戸、山形、佐賀、弘前、松江、大阪、浦和、福岡、姫路、廣島、静岡、高知、富山、醫科大學、千葉、新潟、金澤、岡山、長崎、熊本、愛知、女子高等師範學校、東京、奈良
高等商業學校、小樽、福島、名古屋、山口、長崎、大分、高等工業學校、仙臺、米澤、桐生、横濱、金澤、名古屋、神戸、廣島、熊本、徳島、大阪、濱松、長岡、福井、盛岡、高等農林學校、秋田、釧路、山形、専門學校、東京、高等蠶業學校、東京、高等工藝學校、上田、蠶絲専門學校、京都、高等蠶業學校、三重、高等農林學校、鳥取、高等農業學校、明治専門學校、鹿兒島、高等農林學校、東京、外國語學校、大阪、外國語學校等

關學校(横須)がある。都邑 我が住民の多數は、農村に在つて、都市に住するものが割合に多くない。しかし交通機關の進歩と、商工業の發達とにつれ、大都市が益々擴大し、小都市村落が漸く衰頹する傾向がある。今左に、人口十萬以上の都邑を擧げよう。

東京	三七 <small>八</small>	大阪	一三五	神戸	六〇	京都	五
名古屋	三三 <small>近海接續町 村併合前</small>	横濱	三三	京城	三三	長崎	六
廣島	一六	吳	三	金澤	三	熊本	三
臺北	二						

政治 國土 國土とは、山脈・河川・海岸又は經緯線などで限られた一定の地域である。我が國は海岸を境界として居たが、今や樺太では條約に基きて、北緯五十度線上に、林空作業を施し、又標石を置きて露領と境し、朝鮮では、鴨綠江・白頭山・豆滿江を以て、支那・露西亞と境して居る。

國體 我が國は、萬世一系の天皇を戴き、皇室の尊嚴、臣民の仰慕は、他國に比類がなく、義に於て君臣、情に於て父子とも謂ふべき圓滿なる君主國體である。

政體 明治二十二年紀元節の當日に、憲法が發布せられ、其の翌年、帝國議會の招集があり、東洋最先の立憲政體とな

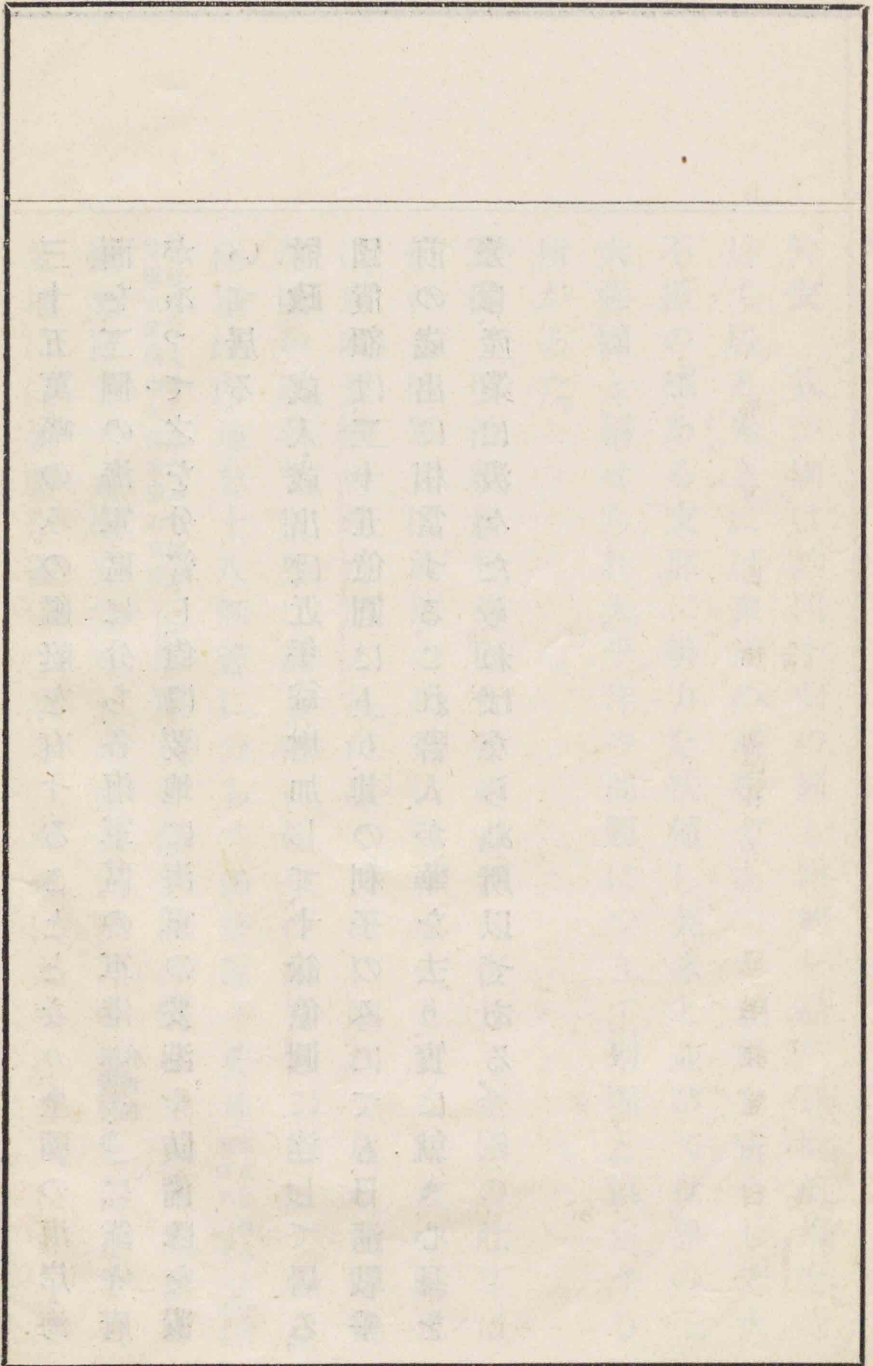
った。立法機關は、則ち帝國議會で、貴族院・衆議院の二つより成り、主に法律案・豫算案を議定する。司法機關は、裁判所で、主に民事・刑事に係る訴訟を審判する。朝鮮縣督府・臺灣總督府・關東廳に屬する裁判所の外に、一大審院東京・七控訴院東京・仙臺・札幌・名古屋・大阪・廣島・長崎と數多の地方裁判所・區裁判所とがある。行政機關は政府で、中央の十省が、全國の行政を分掌し、内閣が之を統一する。十省の大臣と、内閣總理大臣とは、共に國務大臣として内閣を組織し、内閣總理大臣が、其の首班を占める。地方には、三府・四十三縣に知事、北海道樺太の二廳に長官、朝鮮・臺灣に總督、關東廳に長官がある。府縣の下なる郡に郡長、市に市長あり、又郡の下なる町村に町村長あり、右の府・縣・市・町村は、自治機關を有する地方團體である。朝鮮總督府には、十三道に長官、長官の下に府尹・郡守などがある。

外交 我が國は、約四十個の國と條約を結び、通商航海をなして居る。先きには、東洋の禍根であつた朝鮮を併合し、老大不振の感ある支那に勢力を扶植し、英、米と並びて世界の三大強國と稱せられ、太平洋の問題につきて、列強と協定する所があつた。

軍備 明治維新後、海内皆兵の古制に復して、全國の壯丁は、何れも陸軍又は海軍の兵役に復することになつた。國民は、忠君愛國の情が燃え氣が猛く、又海に馴れて居る。是れ我が國が、武名を世界に轟し、殊に極東の覇者たる所以である。陸軍は、内地を十八師管に分ちて、師管區の要地（東京、仙臺、名古屋、大坂、廣島、熊本、弘前、金澤、姫路、善通寺、小倉、高田、宇都宮、豊橋、京都、岡山、久留米、羅南、京城）に師團司令部を設け、別に東京に、近衛師團を置きて、宮闕を守らしめ、臺灣、滿洲に守備隊を置き、また要地には、要塞を置いて居る。海軍は、太平洋會議によりて、

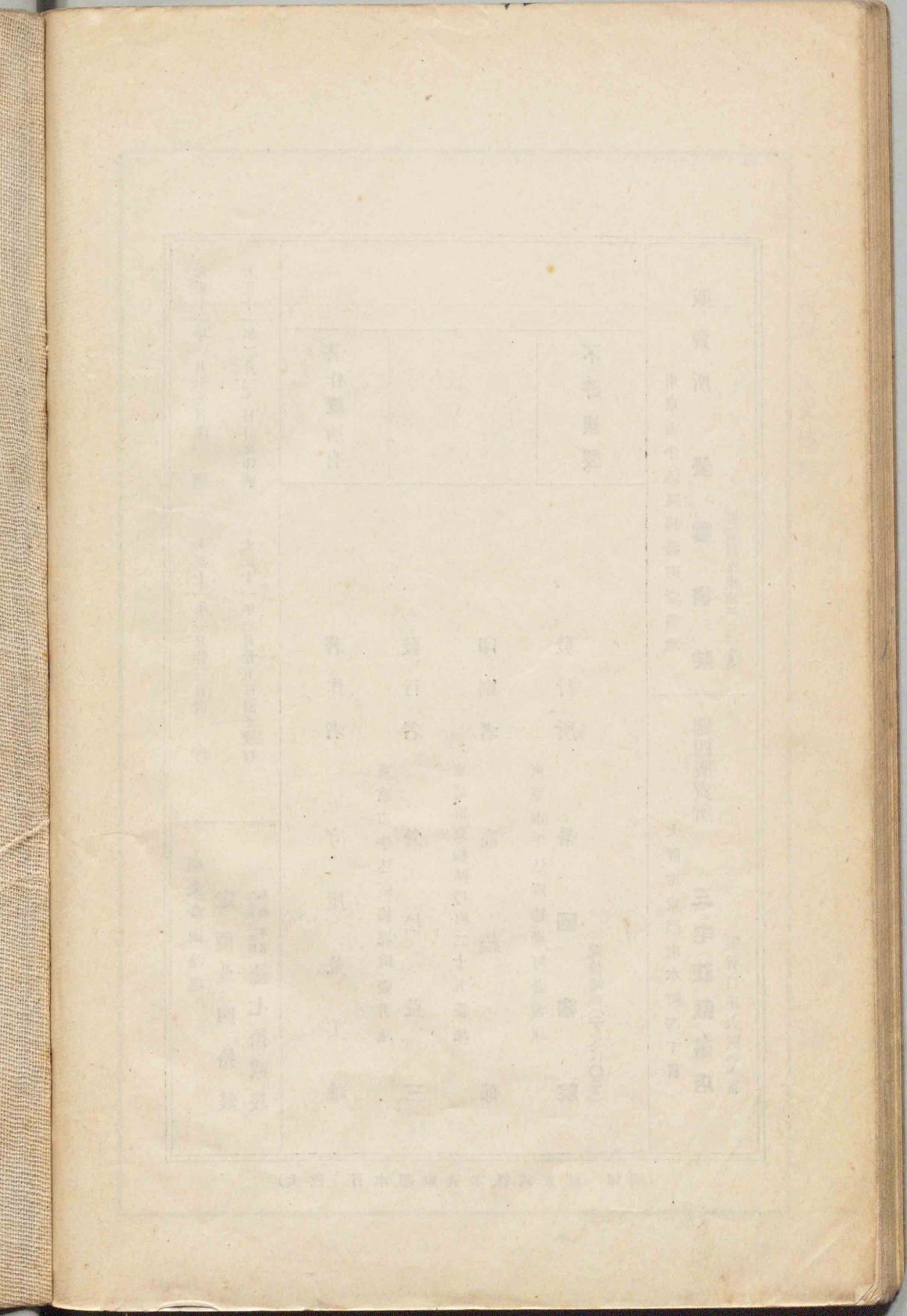
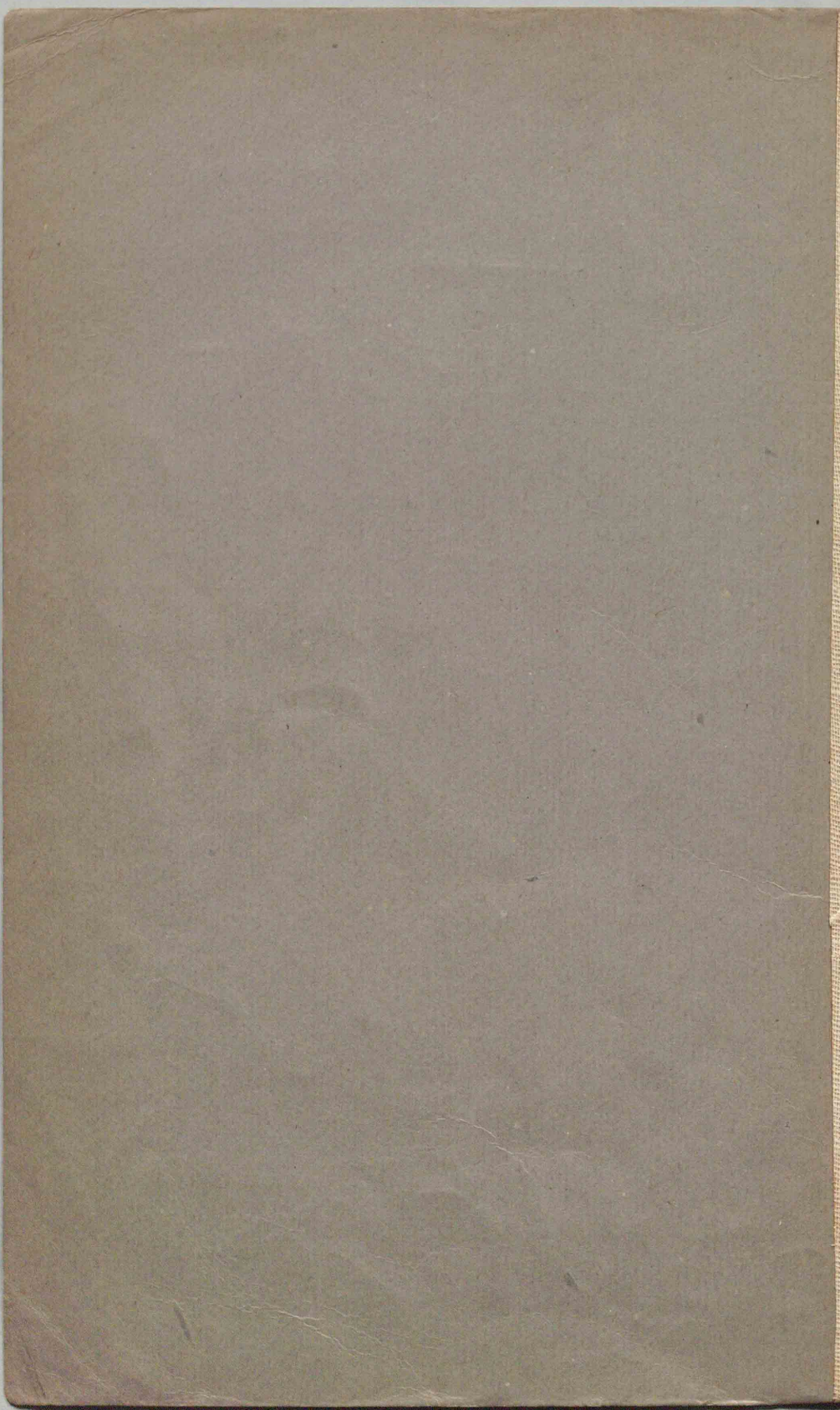
三十五萬噸のみの艦艇を有することとなり、全國の海岸、海面を、三個の海軍區に分ち、各海軍區の軍港（横須賀、吳、佐世保）に鎮守府があつて、之を分管し、尙ほ要地に、海軍の要港や防備隊を置いて居る。

財政 歳入、歳出は近年益増加して、十餘億圓に達して居る。國債額は、三十五億圓に上り、其の利子のみにて、日清戰爭前の歳出に相當する。これ吾人が華を去り、實に就き、心身を勞し、産業に汲々たらねばならぬ所以である。



販賣所 東京市牛込區揚場町壹番地 螢書院 振替口座東京三、三四九番	著作權所有	大正十一年一月十九日印 刷 大正十一年二月二十日訂正印刷	網要帝國地理 定價金 四拾錢 <small>大正十三年度臨時定價</small> 金七拾貳錢
	不許複製	大正十一年一月廿三日發行 大正十一年二月廿五日訂正發行	
關西販賣所 大阪市東區南本町四丁目 三宅莊藏書店 振替口座大阪六九番	著者 守屋 荒美 雄 發行者 東京市牛込區揚場町壹番地 外松 荒三 印刷者 東京市京橋區弓町二十五番地 高橋 郁 發行所 東京市牛込區揚場町壹番地 帝國書院 電信略號(テ又はOテ)		

(刷印 社會式株本製刷印本日 阪大)



豫

心

岡

全

広島大学図書

2000018391

